

# 官報

號外 昭和六年二月二十七日

## ○第五十九回 衆議院議事速記録第十九號

昭和六年二月二十六日(木曜日)

午後一時二十五分開議

議事日程 第十八號

昭和六年二月二十六日

午後一時開議

第一 應業法改正法律案(政府提出)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 應業法中改正法律案(政府提出)

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 取引所稅法中改正法律案(政府提出)

第六 取引所稅法中改正法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第八 應業法中改正法律案(大里廣次郎君外三十七名提出)

第九 應業法中改正法律案(坂井大輔君外二名提出)

第十 犯護士法中改正法律案(北浦圭太郎君外三名提出)

第十一 警罪即決例中改正法律案(松定吉君外三名提出)

第十二 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外三名提出)

第十三 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(末松脩一郎君外四名提出)

第十四 應業法中改正法律案(丹下茂十郎君外一名提出)

第十五 度量衡法中改正法律案(一松定吉君提出)

第十六 計量士法案(一松定吉君提出)

第十七 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(長尾半平君外二十四名提出)

第十八 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出)

第十九 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

第二十 刑事訴訟法中改正法律案(谷川陸郎君外二名提出)

二豫備金支出ノ件

昭和五年度特別會計第

備金外ニ於テ豫算外支

出ノ件

(承諾ヲ求ムル)

第二十一 利息制限法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

第二十二 利息制限法中改正法律案(原夫次郎君外三名提出)

第二十三 民事訴訟法中改正法律案(村岡吾一君外三名提出)

二十四 航空法中改正法律案(永田良吉君提出)

二十五 河川法中改正法律案(山村儀重君外五名提出)

二十六 借地借家調停法中改正法律案(小久江美代吉君提出)

二十七 借家法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出)

二十八 六大都市ニ關スル法律案(森田茂君外十八名提出)

二十九 産業組合中央金庫法中改正法律案(山谷義治君外十四名提出)

三十 産業組合中央金庫法中改正法律案(岸田正記君外二名提出)

三十一 殲兵優遇ニ關スル法律案(一松定吉君外一名提出)

三十二 司法代書人法中改正法律案(斯波貞吉君外一名提出)

三十三 農會法中改正法律案(牛場清次郎君外三名提出)

三十四 農會法中改正法律案(末松脩一郎君外十二名提出)

三十五 耕地整理法中改正法律案(牛場清次郎君外三名提出)

三十六 酒造稅法中改正法律案(古島義英君外一名提出)

三十七 道路維持修繕費損傷者負擔法律案(栗原彥三郎君提出)

三十八 穀類精製粉取締法案(大竹貢一君外四名提出)

三十九 私生子ノ名稱ニ關スル法律案(一松定吉君外六名提出)

四十 負債整理組合法案(土井權大君外三名提出)

四十一 產業組合法中改正法律案(土井權大君外三名提出)

四十二 農工銀行法中改正法律案(土井權大君外三名提出)

四十三 日本勸業銀行法中改正法律案(土井權大君外三名提出)

四十四 北海道拓殖銀行法中改正法律案(土井權大君外三名提出)

四十五 米穀需給特別會計法案(土井權大君外三名提出)

四十六 米穀需給特別會計法案(土井權大君外三名提出)

四十七 計理士法中改正法律案(定塚門次郎君外二名提出)

四十八 無盡業法中改正法律案(松田正一君外二名提出)

四十九 古物商取締法中改正法律案(石原善三郎君提出)

五十 身元保證ニ關スル法律案(一松定吉君外三名提出)

五十一 辨理士法中改正法律案(名川侃市君外四名提出)

五十二 大日本帝國國旗法案(石原善三郎君提出)

五十三 大正十五年法律第五十二號申改正法律案(土地區劃整理二伴清次郎君提出)

五十四 震災ニ因ル土地區劃整理施行區内ノ假建築著手期限變更ニ關スル法律案(戸井嘉作君外三十八名提出)

○議長(藤澤幾之輔君) 諸般ノ報告ヲ致セマス  
〔書記官朗讀〕  
一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
自動車交通事業法案  
輸出組合法中改正法律案





官報號外 昭和六年二月二十七日 総務

勢力ヲ彈壓シ、之ヲ暴壓セントスル、今日ノ政治ノ「カラクリ」ニ迎合致シタ所ノ、議長ノ專斷的處置デアルト云フコトヲ、私ハ宣言セザルヲ得ナイノデアリマス(ノーノー)何處ノ議會ニ於テ勞働組合法案ヲ審議スルニ當り、無產階級ノ意見、勞働大衆ノ意見ヲ聽カズシテ、審議セラレタ所ガアリマセウカ、極メテ廣キ氣持ヲ以チ、斯ル問題ニ付テハ雙方ノ立場ヲ明瞭ニシ、意見ハ十分ニ發露セシメテ、言論ニ依テ鬪フノガ、當然ノ事デナケレバナラナイ、斯様ナ暴壓ニ依シテ、言論封鎖ニ依シテ勞働組合法ヲ審議シヨウト云フ其意圖ハ、吾々ガ追窮シマスナラバ、反動政治ガ、或ハ資本家本位ノ政治ガ、極メテ濃厚ニナシタト共ニ、其影響ハドウ云フ風ナ影響ヲ社會全般ニ與ヘルカト云フコトヲ考ヘテ見マスナルバ、非常ニ社會世相ガ惡化スルト共ニ、經濟恐慌ノ動亂、失業ノ洪水、非常ニ恐ルベキ社會狀態ガ茲ニ現ハレテ來ルト云フ、其原因ヲ作ルモノハ斯様ナ言論封鎖デアリ、斯様ナ暴壓的法案ノ提出ガ原因ヲ成シテ居ルト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、此意味ニ於テ議長ノ執リマシタ處置ハ不當デアルト共ニ、極メテ公明ヲ缺イテ居ル、不公平極マルモノデアル、無產大衆ノ要望ヲ壓迫シ、暴壓シタ處置デアルト言ハレテモ、何等辯解ノ辭ナシト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、議長ノ明快ナル御答辯アランコトヲ求メル次第アリマス

終局ノ動議方出マシタ後ニ、片山君カラ質疑終局前ニ議事進行ニ付テ發售シタイト云  
フ申出ガアリマシタ、然ルニ作田君ノ要求  
ハ、只今申述ベマシタ通り、片山君ノ要求  
以前ニ係カルモノデアリマス、而モ作田君  
ノ動議ハ先決問題デアリマスカラ、是ハ先  
例ニ依リマシテ、直チニ採決ヲ致サンケレ  
ドモ、斯ル性質ノ發言ハ、作田君ノ質疑  
バナラヌノデアリマス、故ニ片山君ノ御發  
言ハ之ヲ許可シナカツタノデアリマス、片山  
君ハ其後ノ事ニ付テ御述ニナリマシタケレ  
合ノモノデアリマスカラ、重不テ之ヲ許ス  
筈ノモノデモナク、又片山君カラ何等ノ説  
明ナクシテ言論ニ施壓ヲ加ヘタト云フヤウ  
ナ御意見モアリマシタケレドモ、議長ヒ議  
事ノ進行ノ上ニ一々説明ヲ加フベキモノデ  
ハナイノデアリマス、或ル特例ノ場合ニ於  
テノミ説明ヲ致スコトガアルニ過ギヌノデ  
アリマス、之ヲ以テ御答ト致シマス  
更ニ松谷與二郎君カラ議事進行ニ關シテ  
發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許可致シ  
マス——松谷君

ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシト規定セラレテ居ルノデアリマス、此規定ハ全ク議員ノ職權、機能ニ對スル所ノ絕對保障ノ規定デアルノデアリマス、隨テ議員ノ登院ヲ權力ヲ以テ阻止スルガ如キハ、明カニ此憲法五十三條ニ違反シタモノデアルト私共ハ斷ゼザルヲ得ナイ、此吾々ノ登院ニ對シテ、之ヲ阻止シタト云フコトハ、少クトモ憲法五十三條ノ精神ヲ無視シ、之ヲ躊躇セルモノト議長ハ考ヘテ居ラレナイカドウカ、其點ヲ先づ第一點トシテ質問致シマス次テ此十八日ノ豫算案討議ノ表決ニ際シテ、無產黨ガ事實上此暴行或ハ閉門、登院阻止ニ依テ表決ニ加ハラナカッタト云フ事實ヲ、御認メニナックカドウカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス

委員數名ガ檢束セラレタト云フ事實ス  
ラアルノデアリマス、ソレカラ丁度私  
共ガ正門カラ入ルベク來タノデアリマ  
ス、所ガ正門ヲ入ル手前ノ四辻ノ處デハ、  
警官ガ又入垣ヲ作ッテ居ルノデ、已ムヲ  
得ズ私共ハ左へ切ッテ通用門ニ來タノデ  
アリマス、當時通用門ニ來ルト、通用門方  
ビタリト締メラレテ居リマシテ、サウシテ  
通用門カラスラモ入ルコトガ出來ナカッタ  
ノデアリマス、面モ龜井前代議士ノ如キヤ  
院内ニ於テ負傷セラレタト云フコトハ、新  
聞紙自身ガ明細ニ其事實ヲ物語テ居ル、然  
ルニ拘ラズ斯ノ如キ事實ノ有無スラモ、議  
長ハ否認ヲシテ居ラル、ノデアルカ、果シ  
テ此事實自身ヲ認メラレルカ、議長ヲ通ジ  
テ更ニ私ハ内務大臣ニ此質問ヲ申上ゲタ  
イ、果シテ斯ウ云フ事實ガアツクノデアル  
カ、ナカタノデアルカ、全然此事實ヲ否認  
セラル、カト云フコトヲ、私ハ議長ニ御伺  
ヲシタク、而モ通用門ヲ締メタ事自身ニ付  
テ、果シテ御認メニナツテ居ルカドウカ、何  
人ガ締メタノデアルカト云フコトニ付テ、  
十分ノ御答辯ガ頗ヒタイ、此當時デアリマ  
スガ、淺原、西尾、片山君等ガ、此點ニ付  
テ質問シタ時ニ於キマシテ、議長ハ何ト  
言フテ答辯ヲセラレタカト云フト、百數十名  
ノ群衆ガ腕ヲ組ンデ殺倒シテ來タノデア  
ル、危險ト見テ閉門シタ、ソレデ其當時警  
官ノ執ツク處置ハ、最モ適當デアルト本院ニ  
於テ言明セラレテ居ルノデアリマス、私ハ  
百數十名デアツカ吾々ノ主張スル二三十  
名デアツカト云フコトニ付テ、私ハ多ク事  
實ヲ申上ゲマセヌ、此處ニ其閉門當時ノ寫  
眞ガアルノデアリマス、此寫眞ヲ御覽ニナ  
レバ極メテ明瞭デアリマス、閉門ヲ將ニセ  
ントシテ居ル、警官ガ此處ニ居ル、其裏ニ  
ドレダケノ警官以外ノ人員ガ居ルデアラウ  
カ、僅ニ三十名シカ居ナイ、然ルニ拘ラ  
ズ百數十名ト云フヤウナ、出鱈目ノ報告ヲ

爲サレルコト自身ガ、事實ヲ無視シテ居ル御答辯アル、私ハ敢テ言フ、其事實ヲ否認セラル、ナラバ、先づ此寫真カラ否認シテ掛ラナケレバナラナイ、私ハ敢テ言フ、議長ハ私共ノ言葉自身ヲ否認セラレテモ、果シテ此現代科學ヲ否認セラル、カドウカト云フコトヲ、先づ御尋フシタイト考ヘル

更ニ私ハ申上ゲマスガ、僅カ一三十名ノ陳情ニ來ル者ニ閉門ヲナスガ如キコトハ、殆下前例ニナideハナイカ、私ノ聞ク所ニ依レバ、古イ十五六年前ニ於テ、何十万、何万ド云フ群衆ガ殺到シタ時ニ、始メテ一回門ヲ閉サレタコトガアルトキテ居ル、議長ノ仰シヤルヤウニシテモ、タタ百名デハゴザイマセヌカ、タタ百名ノ者ガ陳情ニ來ルノニ門ヲ繕メテ入レナイガ如キコトハ、實ニ私ハ議員ノ權能、議院ノ神聖ヲ害スルモノデアルト謂ハザルヲ得ナイ、タタ百名、何ガ怒シイノデアル、議院内ニハ警官ガ居リ、守衛ガ居ルデハナイカ、僅カ百名ノ人間ガ來ルノニ門ヲ閉シテ、サウシテソレヲ阻止スルガ如キハ、實ニ暴舉モ甚シイト私共ハ言ハザルヲ得ナイ（拍手）果シテ斯ノ如キ僅カ三十名ノ者ガ來タ、ソレニ對スル閉門ハ、今尙本適當ナリト信ジテ居ラルヤ否ヤト云フコトヲ御伺シタイ、私ハ斯ノ如キ暴舉ニ對シテ、何故ニ議長ハアサリト、ソレハ聞達デアツタ、僅カ三四十名、假ニ百名トシテモ、百名値ノ人ノ來ルノニ、謝ノ意思ガアルカナイカ、此點ヲ明瞭ニ御答ヲ願ヒタイ

次ニ私ハ前代議士デアツタ龜井貫一郎君ノ負傷ノコトニ付テ御尋ヲスル、議長ハ負傷ノ事實ダケハ認メル、認メルガ、何人ガ

暴行ヲ爲シタカ、或ハ又如何ナル時期ニ暴行ガアツカ、門前デアツカ、門外デアツカ分ラナイト言ハレテ居ル、其後ノ調査ハ如何ニナツタノデアラウカ、閉門ト云フヤウナ、殆ド議會始テ以來ナイ處置ヲ執ラレタ此事件ニ對シテ、而モ前代議士ガ院内ニ於テ負傷シテ居ル、其事實スラモ調査ガ出來ナイデ、果シテ院ノ警備、院ノ神聖ヲ保テルモノデアルカドウカト云フコトヲ御尋シタイ、就中龜井君ノ負傷當時ノ寫眞ハ此處ニアリマス、門ノ内デアルト云フコトヲ議長ハ能ク御認メヲ願ヒタイ、亂闘騒ギヲヤンテ居ルコトハ、此寫眞デ明カデヤナインカ、然ルニ拘ラズ此重大ナル門ヲ閉ヅルガ如キ、前例ノナイト重大ナル事項ニ對シテ、之ヲ有耶無耶ニ葬ムル如キハ、私ハ將來ニ悪例ヲ貽スモノト絶叫セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)此惡例ヲ貽シテマデモ事實ヲ否認シ、事件ヲ有耶無耶ニセラレル考デアルカドウカト云フコトヲ御尋シタイ、私ハ衷心カラ疊ヘテ居ル、僅カ無産黨員五名、陳情者十八名、全部ニ二十三名デヤナイカ、是等ノ者ニ暴行ヲ働キ、或ハ又登院ヲ阻止シ、有ユル暴虐ナル行爲ヲ行ウテ、議員ノ權能ヲ無視スルガ如キコトアレバ、無產大衆ヲ激昂セシメテ、如何ナル結果ヲ招來スルカト云フコトニ付テ、其結果ニ付テ果シテ如何ナル考ヲ議長ハ持テ居ラレルカ、ドウカ、私ハ敢テ言フ、議會ニ於テハドウ云フ事實ガ行ハレテ居ル、來ル議會モ來ル議會モ亂闘騒ギノナイコトヘナイノデアル、現ニ先達ノ如キハ、短刀ヲ持込ミビストルマデモ持込シダト云フデヤアリマヌカ、議會ハ言論ノ府デハアルケレドモ、言論デハ駄目デアルカラ實力ダ、實力ダト云フコトヲ、諸君ガ示シタモノデヤナナイカト私ハ認メザルヲ得ナイ、斯ノ如キ暴力ヲ揮フ所ノ議會ハ、吾々民衆、吾々無產階級ノ運動ニ對シテモ、此暴虐ヲ敢テスルナラバ、如何ニ羊ノ如キオトナシイ無產階級デ

第一 無盡業法改正法律案(政府提出)

無盡業法改正法律案

第一條 本法ニ於テ無盡ト稱スルハ一定  
ノ口數ト給付金額トヲ定メ定期ニ掛金  
ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤、入札其ノ  
他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢  
ノ給付ヲ爲スヲ謂フ無盡類似ノ方法ニ  
依リ金錢又ハ價證券ノ給付ヲ爲スモ  
ノ亦同ジ但シ賭博又ハ富籤ニ類似スル  
モノハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 無盡ハ營業トシテ之ヲ爲ストキ  
ハ之ヲ商行爲トス

第三條 無盡業ハ主務大臣ノ免許ヲ受ク  
ルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書  
ニ定款、事業方法ヲ記載シタル書面及  
無盡契約款ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ  
提出スベシ

警察權行使ニ關スル問題ニ付テハ、議長ハ去十九日及二十一日ノ本會議ニ於ケル、淺原君其他ノ方々ノ議事進行ノ發言ニ對シテ、其都度御答致シタノデアリマス、議長トシテノ答辯ハ、同一ノコトヲ重ネル外ニ、最早新タニ御答スペキモノハゴザイマセス、之ヲ以テ御説承ラ願ヒマス——是ヨリ日程ニ入リマス

日程第一、無盡業法改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、小川政務次官

アツテモ、私ハ恐ル、其結果恐ルベキ結果ヲ  
招來シ、眞ニ憂慮ニ堪ヘザル場合アリト云  
フコトヲ、議長ニ於テ十分御考慮ノ中ニ置  
イテ、明瞭ナル御答辯ヲ願フト共ニ、私ハ  
極メテ明快ニアサリト陳謝ノ意ヲ表セラ  
レンコトヲ希望致シマシテ降壇致シマス  
(拍手)

第四條 無盡會社ノ資本金三萬圓以上ニテ拂込金額一萬五千圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第五條 無盡會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用フベシ

第六條 無盡會社ハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第七條 無盡會社ノ營業區域ハ道府縣ノ区域内ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スベシ

第八條 無盡會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

一 定款ヲ變更セントスルトキ

二 事業方法又ハ無盡契約約款ヲ變更セントスルトキ

三 出張所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第九條 無盡會社ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設クリコトヲ得ズ

第十條 無盡會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 國債、地方債其ノ他特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券又ハ株式ノ買入

二 前號ノ有價證券又ハ不動產ヲ擔保トスル貸付

三 掛金者ニ對シ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トスル貸付

四 掛金者ニ對シ既ニ拂込ミタル金額

五 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金  
前項第四號ノ規定ニ依ル貸付金總額ハ  
拂込資本金及諸準備金ノ總額ヲ超ユル  
コトヲ得ズ

第十一條 無盡會社ガ會社財產ヲ以テ其  
ノ債務ヲ完済スルコト能ハザルニ至リ  
タルトキハ無盡契約ニ基ク會社ノ債務ハ  
ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責  
ニ任ズ

前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債  
務ニ付退任登記後二年間仍存續ス

第十二條 無盡會社竝ニ其ノ取締役、監  
査役、使用人及代理店主ハ何人ノ名義  
ヲ以テスルヲ問ハズ自己ノ計算ニ於テ  
其ノ會社ト無盡契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 無盡會社ハ無盡ノ缺口又ハ掛  
金ノ拂込ヲ爲サザル者アル場合ト雖モ  
第一回ノ抽籤、入札其ノ他類似ノ方法  
ヲ行ヒタル後ハ掛金者ノ不利益ニ給付  
ヲ變更シ又ハ掛金額ヲ增加スルコトヲ  
得ズ

第十四條 無盡會社ハ資本ノ總額ニ達ス  
ル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシ  
テ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベ  
シ

第十五條 無盡會社ノ營業年度ハ一月ヨ  
リ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十六條 無盡會社ハ營業年度毎ニ業務  
報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出  
スベシ

第十七條 無盡會社ハ營業年度毎ニ主務  
大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ  
作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ

第十八條 無盡會社ノ監査役ハ無盡會社  
ノ業務及財產ノ状況ニ關スル調査ノ結  
果ヲ記載シタル監査書ヲ每營業年度一  
回作成シテ之ヲ本店ニ備へ置ケベシ

第十九條 無盡會社ノ常務ニ從事スル取  
賃付

第二十條 掛金者ハ無盡會社ニ對シ其ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ其ノ加入シタル無盡ニ關シ命令ノ定ムル事項ニ付説明書ノ交付ヲ求ムルコトヲ得  
第二十一條 無盡會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ  
第二十二條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得  
第二十三條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡會社ノ業務及財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得  
第二十四條 主務大臣ハ無盡會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ事業方法若ハ無盡契約款ノ變更、業務ノ停止又ハ財產ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
第二十五條 無盡會社ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得  
第二十六條 主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル無盡會社ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得  
第二十七條 無盡業ノ廢止又ハ無盡會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ  
第二十八條 無盡會社が其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存續スル場合ニ於テハ無盡會社ニ關スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其ノ會社ガ掛金者

ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ無盡會社ニ非ザル會社ガ無盡會社ノ掛金者ニ對スル債務ヲ承繼シタル場合亦同ジ  
第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第二十九條 無盡會社ガ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス  
前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ選任ス其ノ清算人ノ解任亦同ジ  
第三十條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得  
前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得  
第三十一條 裁判所ハ無盡會社ノ清算事務及財產ノ狀況ヲ検査シ、財產ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得  
第三十二條 無盡會社ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ無盡會社ノ検査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ検査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得  
第三十三條 無盡會社ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ無盡會社ノ検査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得  
第三十四條 無盡管理會社ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込ナキ場合ニ於テ掛金者ニ代リ掛金ノ拂込ヲ爲ス責ニ任ズ  
第三十五條 無盡管理會社ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス  
掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關スル

訴ニ於テハ無盡管理會社ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第三十六條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ無盡業ヲ營ミタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人又ハ清算人ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載、虚偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公衆ヲ欺罔シタルトキ

二 本法ニ依ル検査ニ際シ帳簿書類ノ隠蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ガタルトキ

第三十八條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者)又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 第六條、第八條、第九條、第十條、第十三條、第十四條、第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第七條ノ規定ニ依リ定メタル營業區域外ニ於テ營業ヲ爲シタルトキ

三 無盡會社ガ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

四 正當ノ理由ナクシテ第二十條ノ説明書ノ交付ヲ拒ミ又ハ之ニ虚偽ノ記載ス

五 本法ニ依リ無盡會社ニ備へ置ケ記載ヲ爲シタルトキ

六 第二十四條、第二十五條、第二十八條又ハ第三十一條ノ規定ニ依リ主務大臣又ハ裁判所ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第七条 本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第三十九條 第十二條ノ規定ニ違反シタル取締役、監査役、使用人又ハ代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者)ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス前項ノ場合ニ於テハ無盡會社ノ取締役及監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第四十条 第五條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十一条 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第四十二条 本法中主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三条 本法中無盡會社竝ニ其ノ取締役、監査役、支配人、清算人及代理店主ニ關スル規定ハ無盡管理會社竝ニ其ノ取締役、監査役、支配人、使用者、清算人及代理店主ニ、無盡業ニ關スル規定ハ無盡管理業ニ之ヲ準用ス

附 則

第四十四条 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十五条 従前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル株式會社以外ノ無盡業者ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法施行後五年ヲ限リ仍其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第五十条 第四五條第一項ノ無盡業者付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシニシテ會社ニ非ザルモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十一条 本法中取締役ニ關スル規定ハ第四十五條第一項ノ無盡業者ニ付テハ其ノ營業主(營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員)ニ之ヲ準用ス

第五十二条 従前ノ第三十一條第一項又ハ第三十二條ノ無盡業者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十三条 非訟事件手續法第二百三十六條、第二百三十七條及第二百三十八條ノ二

規定期ニ拘ラズ本法施行後五年ヲ限リ仍從前ノ規定ニ依ル

第四十七条 従前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル無盡業者ニシテ前條ノ期限迄ニ第ニ改正規定ノ要件ヲ具備セザルモノガ其ノ期限迄ニ爲シタル無盡契約ニ付テハ之ガ完了ニ至ル迄其ノ契約ニ關スル業務ニ限り之ヲ繼續スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ無盡業者ガ前項ノ業務以外ニ無盡業ヲ營ミタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八条 従前ノ規定ニ依リテ免許ヲ受ケタル無盡業者ノ本法施行ノ際現ニ有スル本店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ハ本法施行後一年内ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ存續スルコトヲ得ズ

前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月内ニ主務大臣ニ提出スベシ

第四十九條 本法施行ノ際現ニ無盡會社ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第五十条 第四五條第一項ノ無盡業者ニシテ會社ニ非ザルモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五十一条 本法中取締役ニ關スル規定ハ第四十五條第一項ノ無盡業者ニ付テハ其ノ業務ヲ執行スル社員)ニ之ヲ準用ス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ政府提出、抵當證券法案外九件ノ委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマヌ

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ハアリマセヌ一日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ハアリマセヌ一日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○作田高太郎君 本案ハ政府提出、抵當證券法案外九件ノ委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマヌ

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ

マヌ、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第三、瓦斯事業法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマヌ、依商工大臣

第三 瓦斯事業法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一 論會

〔政府委員小川郷太郎君著〕

○政府委員(小川郷太郎君) 只今議題トナリマシタ無盡業法改正法律案提出ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス

無盡ハ最モ古イ沿革ヲ有シマスル我國固有ノ金融法デアリマシテ、早クカラ津々浦浦ニマテ普及致シテ居ルノデアリマス、現レタモノニアリマシテ、爾來無盡業者ノ適從スペキ基準トシテ、本業ノ發展ニ貢獻シテシダノアリマス、併ナガラ其後時勢ノ進運ト本法施行ノ實績トニ鑑ミマシテ、其無盡業ヲシテ一層庶民金融機關タルノ機能ヲ發揮セシメンガ爲メ、營業上ノ資金運用ノ範囲ヲ擴張スル外、銀行法、貯蓄銀行法及信託業法等ノ規定ヲモ參照致シマシテ、或ハ其營業ノ主體ヲ株式會社ニ制限シ、或ハ無盡會社ノ監査役ヲシテ毎營業年度一回監査書ヲ作成スルノ義務ヲ負ハシムル等、種々ノ改正ヲ加フルコトヲ至當ト認メマシタノデ、茲ニ無盡業中改正法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレント切望致シマス

〔政府委員小川郷太郎君〕 本案ハ政府提出、抵當證券法案外九件ノ委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマヌ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ

マヌ、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第三、瓦斯事業法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマヌ、依商工大臣

## 瓦斯事業法中改正法律案

瓦斯事業法中左ノ通改正ス

第十二條第二項ヲ左ノ如ク改メ同條第四項ヲ削ル

前項ノ規定ニ依リ瓦斯料金ノ設定又ハ

變更ノ認可申請アリタルトキハ主務大

臣ハ關係市町村ノ意見ヲ徵スベシ

第十二條ノ二 瓦斯事業ヲ營ム會社其ノ

資本ヲ増加セントスルトキハ命令ノ定ム

ル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十二條ノ三 瓦斯事業ヲ營ム會社瓦斯

事業以外ノ事業ヲ營マントスルトキハ

命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可

ヲ受クベシ命令ノ定ムル限度ヲ超エ同

一會社ノ株券若ハ債券ヲ所有シ又ハ同

一人ニ對シ資金ノ貸付ヲ爲サントスル

トキ亦同ジ

第十二條ノ四 前二條ノ規定ハ瓦斯事業

ヲ營ム會社ニシテ瓦斯事業以外ノ事業

ヲ主タル業務トスルモノニハ之ヲ適用

セズ

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第十二條ノ四ノ會社ガ瓦

斯事業ヲ營マザル會社ヲ合併セントス

ル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十七條ノ二 市町村ト瓦斯事業者トノ

間ニ存スル事業經營ニ關スル定ニ基キ

市町村又ハ瓦斯事業者ガ相手方ニ對シ

要求ヲ爲シ又ハ承認ヲ求メタル場合ニ

於テ協議調ハザルトキハ主務大臣之ヲ

裁定ス

前項ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ依リ主務大臣ノ許可又ハ認

可ヲ受クベキ事項ニ關シテハ之ヲ適用

セズ

第十八條 行政官廳ハ瓦斯事業者ニ對シ

瓦斯工作物、業務及財產ノ狀況ニ關シ

検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

主務大臣ハ瓦斯事業者ニ對シ瓦斯工作

物、業務又ハ利益金ノ處分、銷却其ノ

他計理ニ關シ改築、改善其ノ他監督上

必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十條ノ二 瓦斯事業者其ノ供給區域

ノ一部分ニ對シ久シキニ瓦リ瓦斯ノ供

給ヲ爲サザルトキハ主務大臣ハ其ノ部

分ニ付供給區域ノ變更ヲ命ズルコトヲ

得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ認可ヲ受クベキ事項ニシテ本

法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ

認可ヲ受ケタルモノト看做ス

〔國務大臣儀孫一君登壇〕

○國務大臣(儀孫一君) 只今提出致シマシ

タ瓦斯事業法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ

御説明申上ゲマス、瓦斯事業ハ公共ノ利益

ニ重大ナル關係ガアリマスルカラ、一方是

ガ取締監督ヲ嚴重ニ致シマスルト共ニ、他

方事業ノ發達ヲ助成スル必要ガアリマスル

ノデ、現行事業法ヲ制定致シマシテ、大正

十四年ヨリ實施致シテ居ルノデアリマス、

然ルニ現行法ハ瓦斯事業上ノ財務的監督ニ

缺クル所ガアリマシテ、其規定ガ未ダ十分

デアリマセヌ、仍テ法律施行後ノ實績ニ鑑

ミ、今回專ラ此點ノ監督規定ヲ充實スルノ

目的ヲ以テ、改正案ヲ提出シタ次第デアリ

マス、尙ホ之ニ從ヒマシテ、現行法ノ施設

ニ付テ不便且ツ不十分ヲ感ズル二三ノ事項

ヲ、同時ニ改正致シタイ積リデアルノデア

リマス、詳細ノコトハ委員會ニ於テ御説明

ヲスルコトニ致シタ伊トイ思ヒマス、何卒御審

議ノ上協賛ヲ與ヘラレシコトヲ願ヒマス

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ヲ許シマス、

深澤豐太郎君

○原惣兵衛君 只今深澤君ガ一寸見エテ居

リマセヌカラ、本案ハ後廻シニシテ、日程

「贊成々々」反對々々ト呼フ者アリ

○議長(藤澤幾之輔君) 原君ノ動議ニ贊成

アリト認メマスガ、御異議アリマセヌカ

「反對々々」贊成々々ト呼フ者アリ

○議長(藤澤幾之輔君) 今深澤君ガ見エマ

シタカラ、質疑ヲ許シマス、深澤君

〔深澤豐太郎君登壇〕

○深澤豐太郎君 私ハ只今御提案ニナリマ

シタ瓦斯事業法中改正法律案ニ付キマシ

テ、其大綱ニ付テ二三ノ疑義ヲ質シテ置キ

タイト思フノデアリマス

今回此瓦斯事業法ヲ改正セラル、ニ當リ

マシテ、以前ニ瓦斯事業法ヲ作リマシタ當

時ノ、瓦斯事業法制定ノ精神ト同一ノ理由ニ

依ッテ、依然トシテ此改正案が出来タモノノ

デアルカドウカ、此改正案提出ノ理由書ニ

依ッテ見マシテモ、前回ト殆ド同一ノ理由ナ

云フト、吾々ハ幾多ノ疑義ヲ發見致スノデ

アリマス、其中デ最モ重要ト思ヒマスル二

三ヲ問ヒマスレバ、今回ノ吾々ノ手許ニ廻

ハサレタ改正案ノ中ノ第十二條ノ二ト云フ

モノニ「瓦斯事業ヲ營ム會社其ノ資本ヲ増

加セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ

テ居ルモノデアルカ否カト云フコトノ説明

ヲ承リタイ

此理由カラ今回ノ改正ノ案ヲ見マスルト

云フト、吾々ハ幾多ノ疑義ヲ發見致スノデ

アリマス、其中デ最モ重要ト思ヒマスル二

三ヲ問ヒマスレバ、今回ノ吾々ノ手許ニ廻

ハサレタ改正案ノ中ノ第十二條ノ二ト云フ

モノニ「瓦斯事業ヲ營ム會社其ノ資本ヲ増

加セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ

テ居ルモノデアルカ否カト云フコトノ説明

ヲ承リタイ

此理由カラ今回ノ改正ノ案ヲ見マスルト

云フト、吾々ハ幾多ノ疑義ヲ發見致スノデ

アリマス、其中デ最モ重要ト思ヒマスル二

三ヲ問ヒマスレバ、今回ノ吾々ノ手許ニ廻

ハサレタ改正案ノ中ノ第十二條ノ二ト云フ

レテ居ル瓦斯事業ヲ發達セシメテヤルノデ

アルト說明シテ居ル、又其次ハ同一ノ

理由ガ各所ニアリマスルカラ省略致シテ置

キマスルガ、瓦斯事業法制定ノ理由トシテ

居ルモノハ、要スルニ瓦斯事業其モノガ國

民生活ニ必須ナモノデアルト共ニ、染料藥

品其他ノ工業ヲ助長スル意味カラシテモ、

此事業ヲ保護獎勵シテ、便宜ヲ與ヘテ發達

セシメテヤラナケレバ、ナラナイト云フノ

ガ、瓦斯事業法制定ノ精神デアリタノデアリ

マス、商工大臣ハ今日モ依然トシテ需要者

ノ利益ハ第二義ニ置イテ、瓦斯會社ヲ保護

セシメテヤラナケレバ、ナラナイト云フノ

此法律案ノ理由書ノ二三ヲ引例致シマス

タルナバ、瓦斯事業法提案理由書トシテ

ナラナインデアリマス、然ルニ瓦斯事業法

シアルカト云フコトハ、全部ヲ通ジテ一見

シテ分ル所デアルノデアリマス、即チ瓦斯

事業法制定ノ理由書ノ二三ヲ引例致シマス

タルナラバ、瓦斯事業法提案理由書トシテ

大正十二年ニ提案案サレタ時ノ理由書ノ一部

ニハ、現在ノ瓦斯事業ニハ何等ノ統一セル

理由、及其施行事務ノ所管ニ付テノ議院ニ

ノ發達ヲ助長スル爲ニ作ルモノノデアルト說

明セラレテ居リマス、又瓦斯事業法制定ノ

理由、及其施行事務ノ所管ニ付テノ議院ニ

の發達ヲ助長スル爲ニ作ルモノノデアルト說

條文一つヲ見レバ、其様ナ事ハナイト云  
聲モ出マシヤウガ、此條文ノ次ヲ見テ下サ  
イ、第十七條ノニニ「市町村ト瓦斯事業者  
トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル定ニ基キ  
市町村又ハ瓦斯事業者ガ相手方ニ對シ要求  
ヲ爲シ又ハ承認ヲ求タル場合ニ於テ協議調  
ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ストアル  
是ハ現在ノモノ、或ル部分ニ一寸改正ヲ加  
ヘタダケデアル、其次ニ「前項ノ規定ハ本法  
又ハ本法ニ基キテ發スル命令、此命令ニ依テ主務  
大臣ノ許可又ハ認可ヲ得タ所ノ事項ニ關シ  
ノ許可又ハ認可ヲ受クベキ事項ニ關シテハ  
之ヲ適用セズ」ト云フノガアル、本法又ハ本  
法ニ基キテ發スル命令、此命令ニ依テ主務  
大臣ノ許可又ハ認可ヲ得タ所ノ事項ニ關シ  
テハ、之ヲ適用セズトアリマス、シテ見ル  
ト此増資ハ主務大臣ノ認可ヲ得ベシト云フ  
コトヲ前ノ方ニ規定フシテ、主務大臣ノ認  
可ヲ經タルモノハ報償契約ノ定メ、即チ此  
處ニアリマスル「事業經營ニ關スル定ニ基  
キ」云々ト云フ條項、其次ニ來タ此本法並  
ニ本法ニ依ル命令ニ依ツタモノハ、裁定ヲ求  
ムルコトガ出來ナイト云フノデアルカラ、  
此條文ヲ挿入シ、アトニ此裁定ニ付テノ範  
圖ヲ限定シテ、増資ニ對シテ各自治公共團  
體ノ裁定ヲ要求スル權利ヲ失ハシタモノノ  
デアルト斷ジテ、差支ナイモノノデアルカド  
ウカ、此點ニ付テ明答ヲ願ヒタイ

同時ニ同ジ條項ニ於テ最モ虞レナケレバ  
ナラヌコトハ、十七條ノニニ此條文ヲ持テ  
來テ、其但書ニ今ノ本法ニ依ル命令ニ依ツテ  
主務大臣ノ認可ヲ經ベキモノニハ裁定ヲ要  
求スルノ權利ガ無イト云フコトニ定メタノ  
デアリマスカラ、若シ私ノ解釋スル通リデ  
アルトルト、今日東京市ヲ始メ五大都市  
其他各地ニ於テ都市ト瓦斯會社トニ取交歩  
レテ居ル報償契約ノ各條項ハ、大體ニ於テ  
此瓦斯事業法デ許可又ハ認可ヲ要スベキ事  
項トサレテ居ルノデアル、試ニ諸君ガ瓦斯  
事業法並ニ瓦斯事業法ニ依ツテ發セラレタ  
ル勅令ノ全文ヲ御覽ニナルト分ル、其勅令

ノ第一條以下悉ク主務省ノ認可又ハ許可ヲ  
要スベキコトガ規定セラレテ居ルノアリマス、若シ其規定ノ中ニ認可申請ノ場合ハ  
自治體、公共團體ノ承諾書ヲ添附スベシト  
云フ一項ガアリマスレバ、吾々ハ此虞ヲ懷  
カナイノデアリマスガ、現在ノ勅令ニハ是  
ガアリマセヌ、之ヲ挿入スルカ、然ラザレ  
バ今回出サレタ此改正ノ趣旨ニ付テ、此點  
ヲ明カニ安心ノ出來ルヤウニ説明ヲシテ貴  
ハナケレバナリマセヌ

元來商工省ガ斯ウシタ許可又ハ認可ニ付  
テ權限ヲ掌握シ、報償契約ヲ無効ニシテ、  
骨抜ニシテ、其權限ノ全部ヲ商工省ガ握  
テ、瓦斯事業ヲ保護獎勵セントスルノデア  
リマスガ、瓦斯事業其モノカラ見レバ、洵  
ニ變ズベキ法案デアルカモ知レナイケレド  
モ、此瓦斯ノ供給ヲ受ケテ居ル所ノ各都市  
ノ住民ニ對シテハ、最モ恐ルベキ脅威ヲ感  
ズル改正案デアルト謂ハナケレバナリマセ  
ヌ(拍手)

東京市其他或ル一箇所カラ來マシタ今回  
ノ瓦斯料金裁定ニ付テモサウデアリマス、  
瓦斯會社ガ商工省ニ裁定ヲ申請スル理由  
ト、自治團體ガ商工省ニ申請スル裁定ノ理  
由ト、商工省ハ何レヲ正シトシテ御裁定ニ  
ナツテ居ルカ、ヤハリ依然トシテ商工省當局  
ハ、瓦斯會社ヲ保護獎勵スレバ足レリトス  
ル態度ガ、依然トシテ改マラナイデ居ルデ  
ハアリマセヌカ、東京市ノ場合ノ如キハ、  
此處ニ説明スルマデモアリマセヌケレドモ、  
現在二圓二十五錢ノ瓦斯料金ヲ徵收セラレ  
テ居ル、ソレヲ裁定ノ結果僅ニ十三錢ノ値  
下ヲシテ、七年六月三十日カラシテ十八錢  
値下ニスルト云フ御裁定ニナツタ、此裁定ノ  
如キハ、東京市ガ商工省ニ申請シタル所ガ  
正シイカ、會社ガ商工省ニ申請シタル所ガ  
政黨ノ各位中ニハ、此問題ニ付テ最モ深キ  
造詣ト、最モ熱心ナル努力ヲサレタ所ノ諸

由ナケシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ、諸君、石炭ノ値段ハ今日幾ラニナッテ居リマスカ、二十二圓三十錢デアルト云フ當時ノ、大正八年ノ石炭ノ値段ハ、是ハ瓦斯會社ト三井物産ノ契約ガ、大正十年マデ十圓何ガシテ一噸買收ノ契約ガアリ、同時ニ其不足分ヲ三十三圓デ其他カラ買求メ、此十圓ノ石炭ト十三圓ノ石炭ト一緒ニシタモノガ、一二十二圓幾ラデアルト云フ説明ヲ瓦斯會社ハ東京市ヘ出シテ居ル、其石炭ガ一昨年東京市ガ此値下要求ヲシタ時ニハ、十七圓八十錢ニ下ッテ居ッタ、十七圓八十錢ニ下ッタカラ値下ヲセヨト云フ要求ヲシタトキニ、民政黨ノ鈴木寅彦君——御見エニナラヌケレドモ、鈴木寅彦君ノ名前テ全市ニ出シタ「パンフレット」ノ中ニハ、「吾々ハ當時十四圓幾ラノ石炭ヲ買ッテ居ッタノダ、故ニ今日デモ尙ホ高イノダト云フノデ、此反對理由ヲ市民ニ宣傳致シマシタ、吾々ハ其理由ナキコトヲ公文書ニ依テ證明シテ居ルケレドモ、商工省ハ之ヲ採用サレナイ、又今日之ヲ見タナラバドウデアリマス、十四圓幾ラダカラ値下ガ出来ナイト言ッタ、其石炭ノ値段ハ商工當局ノ調デモ、既ニ十二圓臺ニ下ッテ居ルコトヲ御認メニナッテ居ルノデハナイカ、此一項デモ値上當時ニ較ベテ、既ニ立派ニ元ノ値段マデ石炭ハ下ッテ來テ居ル、炭價ノ低落ヲ來シテ元ノ値段ニ下ッタ場合ニ、東京市ガ之ヲ要求シタル時ニハ拒ムコトヲ得ズト云フ明文ガアッテ、之ヲ會社方拒ンデ、之ヲ商工省ニ裁定ヲ求メタノニ、商工當局ハレルケレドモ、吾々ハ此係商工大臣ガ資本ノアル要求ヲ一蹴シテ、市民ノ期待ヲ裏切テシマッタノデアリマス、諸君、吾々ハ世間動モスレバ儀商工大臣ヲ捉ヘテ——ト言ハ此二百万市民ノ正シキ要求ト、立派ナ條項家ヲ擁護スル點ニ於テ——會社ヲ擁護スル點ニ於テハ——ドコロカ、最モ腹ノ黒イ懲度ヲ示シタモノデアルト思フノデアリマス（議長注意セイ「取消セ」ト呼フ者アリ）私

ハ世間デサウ君者フ者ガアルト言ツタノダカラ  
ラ、取消スナラバ世間デ言フモノヲ取消サ  
セナイ、殊ニ横山政務次官ニ至リマシテハ  
當時反対ノ旗頭ニアツバカリデナク、現ニ  
商工政務次官トシテ其鍵ヲ握テ居ル一人デ  
アリマス(發言スル者アリ)東京市民ノ爲ニ  
言フテ居ルノニ、君ハ反対スルカ  
○議長(藤澤幾之輔) 私語ヲ禁ジマス  
私語ヲ禁ジマス  
○深澤豊太郎君(續) 横山商工政務次官ハ  
當時瓦斯問題ヲ疑獄ガ起ツタ際ニ、東京市會  
議員トシテ瓦斯問題ニ村テノ、平生ノ監視ヲ  
全ウスルコトヲ得ズトシテ御辭職ニナッタ  
ノデアリマス、五十錢値上ニナッタ時、御自  
身ガ極力反対シクノニ、其反対ガ通ラナカッ  
タト云フノデ辭職ヲセラレタ人デアル、其  
五十錢値上ニ反対フサレタ商工政務次官ガ  
居ルノダ、其人ニ共五十錢ヲ元ノ値段ニ還  
セト云フ案ニ對シテ、自分方鍵ヲ握テ居ル  
一人デアルニ拘ラズ、遂ニ商工政務次官ハ  
東京市會議員トシテ嘗テ執ツタ態度ヲ忘レ  
タルガ如ク、此問題ヲ元ニ還スコトニ或ハ  
努力シタカモ知レヌケレドモ、表面ニハ現レ  
テ居ナイ、其結果カラシテモ之ヲ見ルコト  
ガ出來ナイ、商工政務次官横山勝太郎君ト  
シテハ、此點ニ付テ何等力辯明ヲ爲スノ責  
任アルモノト私ハ思フノデアリマス(拍手)  
殊ニ内務省ノ方ハ——居リマセヌガ、内務  
省ノ政府委員ニ此問題ニ付テ答辯ヲ得ナケ  
レバナラヌコトガアリマスカラ、後テ御出  
席ヲ要求致シテ置キマス、内務省ノ政務次  
官ノ見エマスマデ、横山政務次官ニ御尋ヲ  
シテ置キマス、是ハ商工大臣ニ聞イテモ宜  
イノデスケレドモ、關係上横山政務次官ニ  
御聞キヲ致シテ置キマス

カドウカラ御伺致シテ置キタイ、即チ瓦斯  
省社ハ今日マデニ二圓二十五錢デアタノニ、  
或キニハ一圓三十錢デ賣リ、一圓五十錢デ  
ルト瓦斯會社ノ瓦斯料金ト云フモノハ、其  
會社ナリ、個人ナリトノ隨意契約ニ依テ  
ハ、之ヲ變更スルコトガ出來ルモノデアル  
カ、サウシテ見ルト瓦斯供給ノ料金ハ、所  
謂私法上ノ權利ニ屬スルモノデアツテ、商工  
省ガ最高價段ヲ裁定ヲシテモ、市民ト瓦斯  
會社トノ取引ハ、私法上ニ於テ強チ其裁定  
ニ從ハナケレバナラヌモノデハナイ、會社  
ニ對シテ強制力ヲ有スルモノデハナイト云  
フ點ニ付テ、強制力ヲ有スルモノナリヤ否  
ヤ、若シ有スルモノデアレバ、其法律的根  
據ヲ承リタイト思フノデアリマス、尙ホ將來  
商工省ハ——瓦斯供給ニ付テノ計量器使用  
料ニ付テ伺ヒマス、恰モ米度ヲ使ヒ、  
秤ヲ使フガ如キ此計量器使用料ヲ、之ヲ撤  
廢セシムルノ意思アリヤ否ヤ、尙ホ内務省  
ノ方が見エマセヌカラ、商工省ノ方ニ御伺  
致シテ置キマス、本日ノ新聞ニ依リマスル  
ト云フト、東京瓦斯會社ハ瓦斯熱量販賣ニ  
付テノ正式申請ヲシタ、實施期ハ來ル五月  
カラト云フ報導ガアリマス、此申請ヲ受領  
セラレタカドウカ、又此熱量販賣制度ノ申  
ル報償契約ニハ、東京市ト瓦斯會社トノ間  
ニ瓦斯供給條件ニ協議整ハザル時ニ、瓦斯  
會社ハ商工省ニ申請ヲスル、又商工省ニ申  
請スルニシテモ、東京市ノ承認ヲ求メタ文  
書ヲ添付シテ、此申請ヲシテ居ルカドウカ、  
東京市ノ報償契約ハ一片ノ空文デアル、此  
熱量ノ販賣制ト云フモノハ、吾々需要者ノ  
カドウカラ御伺致シテ置キタイ、即チ瓦斯  
省社ハ今日マデニ二圓二十五錢デアタノニ、  
或キニハ一圓三十錢デ賣リ、一圓五十錢デ  
ルト瓦斯會社ノ瓦斯料金ト云フモノハ、其  
會社ナリ、個人ナリトノ隨意契約ニ依テ  
ハ、之ヲ變更スルコトガ出來ルモノデアル  
カ、サウシテ見ルト瓦斯供給ノ料金ハ、所  
謂私法上ノ權利ニ屬スルモノデアツテ、商工  
省ガ最高價段ヲ裁定ヲシテモ、市民ト瓦斯  
會社トノ取引ハ、私法上ニ於テ強チ其裁定  
ニ從ハナケレバナラヌモノデハナイ、會社  
ニ對シテ強制力ヲ有スルモノデハナイト云  
フ點ニ付テ、強制力ヲ有スルモノナリヤ否  
ヤ、若シ有スルモノデアレバ、其法律的根  
據ヲ承リタイト思フノデアリマス、尙ホ將來  
商工省ハ——瓦斯供給ニ付テノ計量器使用  
料ニ付テ伺ヒマス、恰モ米度ヲ使ヒ、  
秤ヲ使フガ如キ此計量器使用料ヲ、之ヲ撤  
廢セシムルノ意思アリヤ否ヤ、尙ホ内務省  
ノ方が見エマセヌカラ、商工省ノ方ニ御伺  
致シテ置キマス、本日ノ新聞ニ依リマスル  
ト云フト、東京瓦斯會社ハ瓦斯熱量販賣ニ  
付テノ正式申請ヲシタ、實施期ハ來ル五月  
カラト云フ報導ガアリマス、此申請ヲ受領  
セラレタカドウカ、又此熱量販賣制度ノ申  
ル報償契約ニハ、東京市ト瓦斯會社トノ間  
ニ瓦斯供給條件ニ協議整ハザル時ニ、瓦斯  
會社ハ商工省ニ申請ヲスル、又商工省ニ申  
請スルニシテモ、東京市ノ承認ヲ求メタ文  
書ヲ添付シテ、此申請ヲシテ居ルカドウカ、  
東京市ノ報償契約ハ一片ノ空文デアル、此  
熱量ノ販賣制ト云フモノハ、吾々需要者ノ  
カドウカラ見ルト、最モ不便極マルモノデアリ  
マス、成程熱量ヲ一定ノ状態ニ置イテ供給  
スルコトハ、瓦斯供給上必要ナ條件ニ明カ  
ニ相違ナイ、併シニハ瓦斯事業法ノ上ニ  
制限ガ附イテアリマス、此制限ニ依テ熱量  
ヲ保タシメテ置ケベ宜シイ、此熱量制ニ依  
ル料金ヲ取ルト云フコトヲ、ナゼ會社ハ斯  
様ニ御急ギニナルカ、ナゼ御要求ニナルカ、  
吾々市民カラ見レバ、現在ノ「メートル」制  
度ニ依テ供給ヲ受ケテ居テ、其「メートル」  
料金ヲ取ルト云フノナラバ、話ハ分リマス  
ナインデアル、之ヲ熱量制ニシタ場合ニ、  
此「メートル」ヲ熱量ノ「メートル」ニ改メテ  
料金ヲ取ルト云フノナラバ、何等ノ不便ヲ感ジ  
ケレドモ、此料金ヲ取ル申請ヲシタ條文ニ  
依ルト、瓦斯代金計算法ト云フモノニ、需  
要家ニ取付ケタル瓦斯「メートル」ニ依リ計  
量セラレタル瓦斯使用量、立方「メートル」  
ニ四千二百「キロ、カロリー」ヲ乘ジタル積  
ヲ、一万「キロ、カロリー」ニ依テ除シ、其  
商ヲ一熱位當ノ瓦斯料金ニ乘ジテ瓦斯代金  
ヲ算定スルトアル、詰リ之ヲ熱量制トシテ  
取テモ、現在ノ立方法「メートル」テ以テ計シ  
テ居ル、其出テ來タ所ノ「メートル」ヲ、色  
色ナ數字ヲ掛ケタリ、除シタリシテ、此ヤ  
ヤコシイ所ノ熱量制ト云フ數字ヲ出サウト  
云フノデス、是デハ「メートル」ヲ備ヘテ居  
ル一般ノ需要家ハ、今月ハ何「メートル」廻シ  
タ云フノデ、直チニ料金ハ幾ラト云フ算  
定ガ出来ルノデス、ソレヲ斯ノ如キ數種ノ  
手段ヲ施サナケレバ料金ガ出テ來ナイトイト  
フ熱量制ニ改メルノ必要ガ何處ニアルカ、  
又斯ノ如キ制度ヲ現在ノ「メートル」ノ儘デ  
許可シテ差支ナイモノカドウカ、是ハ需要  
者ノ側カラ見ルト、最モ重要ナルコトデア  
リマスカラ、是非明答ヲ願ヒタノデアリ  
マス、計算モ馳レ、バ出來ルカモ知レマセ  
ヌガ、一寸諸君ガヤツテ御覽ナサイ「メート  
ル」ニ四千二百「キロ、カロリー」ヲ乗ジタル

ナレテ居ル、市民ノ利益ノ爲ニハ御使ヒニ  
ナラナイ商工省當局ノ歴史カラ見テ、最モ  
危險ナ條文デアルト思フノデアリマス、商  
工大臣ハ此利益金處分ト云フコトニ付テ、  
説明ヲ加ヘテ置イテ戴キタイ、尙ホ今アリ  
マス瓦斯事業法ノ改正シナイ部分ノ中ニ  
「公益ノ場合」云々ト云フ一項ガアリマス、  
此「公益ノ場合」ニ商工大臣ハ命令ヲ以テ料  
金ヲ制定セシメルコトガ出來ルノデアリマ  
スガ、此公益トハ果シテドウ云フコトヲ云  
フノデアリマセウカ、若シ東京市ノ場合ノ  
如キハ、料金不納同盟ヲ起シテ、一種ノ暴  
動ニ等シキ狀態ニデモナラナケレバ、商工  
大臣ハ之ヲ公共上必要ナルモノトハ御認メ  
ニナラナイノカ、又現在ノ如クニ東京市ガ  
各機關ヲ通ジテ手續ヲ履ンデ、此料金ノ値  
下ヲ求メテ居ルヤウナ場合ニハ、之ヲ公共  
上ノ必要ナリトハ御認メニナラナイノカ、  
此點ニ付テモ御答ヲ煩シテ置キマス、内務  
省ノ政府委員ガ見エマスマデ、以上ノ諸點  
ニ付テ商工當局ノ御答ヲ得タイノデアリマ  
スガ、之ヲ要スルニ瓦斯事業法ノ制定ノ精  
神ハ、依然トシテ資本家擁護デ、使用者ヲ  
保護スル意味ハナイ、アリトシテモ全ク其  
均衡ヲ保テ居ナイト云フ一項ニ付テノ説  
明——増資ノ陰謀ヲ助長スルノデハナイ  
カ、現ニ東京市ガ反對スルガ爲ニ増資ガ出  
來ナイノモ、此改正ニ依ッテ樂々ト増資ノ出  
來ルヤウニ改正ヲシヨウトシタノデハナイ  
カ、報償契約ヲ骨抜キニシテ、此事業法及  
之ニ依ル命令ニ依テ定メタモノニハ、裁定  
ヲ申請スル所ノ權利ノナイヤウナ規定ヲ設  
ケテ、報償契約ヲ骨抜キニシテ——此命令  
ヲ見レバ全部アリマス、大阪デモ京都デモ、  
茲ニ全部ノ報償契約ガアリマスガ、此報償  
ハ出來ナクナルガ、此骨抜キニシテシマッ  
テ、サウシテ自治體ノ迷惑ニナルコトヲ顧

ミナイヤウナ改正案ヲ御出シニナッタ其理由ヲ、若シ納得ガ行クコトガ出来レバ、私モ幸デアルト思ヒマス、公益ノ爲トハドノ程度ヲ言フカ  
ソレカラ料金ノ法律的強制力、是ハ横山サンデモ宜シイ、以上ノ諸點、計算器使用ノ撤廃デアルトカ、斯ウ云フコトニ付テノ商工當局ノ御説明ヲ承リマシテ、重ネテ内務省ノ方ガ見エマシタトキニ、簡単ニ質問ヲ致シマス  
「來タード乎フ者アリ」

頗ヒマス「ト呼フ者アリ」詳細ノコトハ委員會ニ於テ申上ガル機會ガアルダウト思ヒマス、本案ノ提出ノ精神ハ、果シテ事業家本位デアルカ、使用者タル市民本位デアルカ、以前ノ提案ヲシタトキノ理由ヲ引用ニナツテ御話ニナツクノデアリマスガ、本案ハ裏ニ提出ノ理由ノトキニモ簡単ニ申上ダメシタ通りニ瓦斯事業ハ公共ノ利益ニ關係ガゴザイマスカラ、一面ハ事業ノ發達ヲ希スルト共ニ、他面ハ使用者タル市民ノ公私

於テハ、是ハ現行法ニ於テ主務大臣ノ裁定ヲ求メテ居リマス、ソレ故ニ一昨年ノ秋頃此問題ガ起シタキ、商工大臣ハ増資スベカラズト云フ裁定ヲ致シテ居ルノデアリマス、此度ノ規定ニ於キマシテモ、其増資ノ認可ヲ要スル、今マテハ認可規定デナカッタノデアリマス——認可ヲ要スル、然ラブ難儀契約ニ基ク市ノ主張ハドウナルカト云フ御疑念デアリマス、是ハ規定ニゴザイマサヌガ、命令ヲ以テ定メテ、増資問題ニ付きマニニ、關係有入ヘ丁才ニ答浦アハシ、主

○議長(深澤幾之輔君) 御話致シマス 先刻ノ——ノ醫ハ、前ニ如何ナル言葉ヲ置カレマシテモ、議長ハドウシテモ不穏當ト思フノデアリマス、此際御取消ニナッテハ如何デスカ

○深澤豊太郎君 明瞭ニ取消シテ置キマスマシタ

○深澤豊太郎君(續) 此瓦斯事業法ニ依リマスルト、報償契約ニ依ル裁定ハ最モ重要ナルモノデアルカラ、内務當局ト協議スベシト云フコトヲ特ニ明記致シテアル、齋藤政務次官ハ瓦斯事業法ハ御覽デアラウト思ヒマスケレドモ、瓦斯事業法ノ一番末尾ノ所ニアルノデアリマス、報償契約ノ争議裁定等ハ内務行政ニ影響スル所大ナルヲ以テ、内務大臣ト協議シタル上、之ヲ行フコト、爲ストアル、此報償契約ニ依ル争議ノ裁定ハ最モ重要ダタルガ、今此改正案ニ依ルト、其報償契約ナルモノハ全ク骨抜キニサレテ、内務當局ガ將來商工當局ト協議スルノ必要ノナクナルヤウナ法律ガ出テ居ルガ、此自治體ヲ監督スル内務當局ハ、其權限ヲ商工當局ニ疎闊セラレテ差支ナイト御考ニナッテ居ルカドウカ、此點ヲ御伺致シテ置キマス(拍手)

○國務大臣(儀孫一君) 深澤君ノ御質問ニ出来ルダケ簡単ニ御答ヲ致シマス(詳細ニ

頗ヒマス」と呼フ者アリ)詳細ノコトハ委員會ニ於テ申上ダル機會ガアルダラウト思ヒマス、本案ノ提出ノ精神ハ、果シテ事業室本位デアルカ、使用者タル市民本位デアルカ、以前ノ提案ヲシタキノ理由ヲ引用ニシテ御話ニナッタノデアリマスガ、本案ハ曩ニ提出ノ理由ノトキニモ簡単ニ申上ダヌシタ通りニ、瓦斯事業ハ公共ノ利益ニ關係ガゴザイマスカラ、一面ハ事業ノ發達ヲ希望スルト共ニ、他面ハ使用者タル市民ノ公私ノ増進ヲ圖ル趣意トニツ重ナッテ此立法ノ精神ヲ成シテ居ルノデアリマス、最初ノ法律ノ制定ノ――現行法ノ制定ノトキニ出シタル理由書ヲ御引用ニナリマシタガ、其御引用ニナタ理由書ノ一部分ニモ、此事業ヲ達セシムルト云フコトヲ希望スルト共ニ、ハッキリ書イテアリマス、ソレ故ニ現行法ノ精神モ、今回提案シタ精神モ、此點ニ於テハ毫モ變りハゴザイマセヌ、唯今回ノ提案シマシタモノハ、會社ノ財務的ノ取締ガ士分デナイン、ソレ故ニ丁度御引用ニナリマス、タ增资問題モ、アトデ説明ヲ致シマスガ、或ハ銷却モ斯ウ云フ點ノ監督ノ規定ヲ缺イテ居リマスガ爲ニ、勤モスルト公益ニ反するヤウナコトガアルト云フコトノ虞ヲ持タル、ノデアリマスカラ、此會社ノ業務、財務的ノ監督ヲ補充スルト云フコトガ、今題案ノ主ナル意味ヲナシテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ增资問題ニ付テ、報償契約ノ規定ハ今回ノ提案トソニコニ齟齬ガアルノデハナイカ、報償契約ノ規定ヲ如何ニヘルカト云フコトノ御質問デ、アッタノデアリマス、此點ハ能ク御考ヲ願ヒタイコトハ増資問題ニ付テハ、同ジク主務官廳ノ處置ニ付テハ前後變リハゴザリマセヌ、現在の状態ハドウカト申シマスト、深澤君モ能ク御承知ノ通リニ、報償契約ニ基イテ増資問題ノ取扱ヲ致シテ居ルノデアリマス、併ニガラ此會社ト市トノ協議ガ調ハザル場合ニ

護スルダケデサク、増資ノ取締ハ即チ消費  
者タル市民ノ利益ヲ擁護スル譯アルノテ  
アリマス、然ラバ報償契約ハ一體ドウナルノ  
カト云フコトノ意味ノ御尋モゴザイマシタ  
ノデアリマスガ、報償契約ハ或ル部分ニ於  
テ、法律ノ力ニ依テ部分的ニ消滅スル場  
合モアルノデアリマスガ、報償契約ノ效力  
ニ付テハ、決シテ當局者ハ之ヲ全然無效デ  
アルト云フ意見ヲ持テ居リマセヌ、増資ニ  
付キマシテモ、是ハ報償契約ノミニ依ルナ  
ラバ、會社ガ其關係市ニ協議ヲ致シマシテ、  
協議ガ調ハナイ場合ニ於テハ、主務大臣ニ  
裁定ヲ求メテ居ルノデアルガ、今度ハ認可  
ヲ要スル、認可ト裁定トハ少シモ主務大臣  
ノ處置ニハ變リハゴザイマシタ、是ハ御話  
ノ如キ意味ノ下ニ括タ規則デハナイノデアリ  
ル者ハ裁定ヲ申請スルノ權利ガナイト云フ  
コトニ付テ御引用ニナリマシタ、是ハ御話  
ノ二ノ第二項ヲ、本法ニ依テ認可ヲ受ケ  
リマス、裁定モ商工大臣ノ處分デアルシ、  
認可モ處分デアル、同ジク商工大臣ノ處置  
ヲ致シマスルノニ、裁定ノ効ト認可ノ効ト  
二重ニ處置スル必要ガナイカラ、此第十七  
條ノ二ノ第二項ガ生レテ來テ居ルノデアリ  
マス、ソレカラシテ之ニ牽轄致シマシテ、  
君ノ御意見ト私ノ——商工省ノ意見トハ大  
分距離ガアリマス、遙タ距離ガアリマス、  
併ナガラ段々御話ノ如キ説モ伺ヒマシタ  
ガ、料金ノ量定ニ付キマシテハ、唯一概ニ  
石炭ノ値段ノミニ依テ、之ヲ判断スル譯ニ  
支出ヲ要スルコトニ相成リマスカト言ヘ  
バ、是ハ申上ゲルマデモナク深澤君ハ御承  
知ダラウト思フ、五十錢ノ値下ニ付テ、會社ハ幾何ノ  
六百万圓ノ支出ヲ要スルノデアリマス、

斯ウ云フ支出ヲ以テ會社ニ強ニルコトハ、  
是レ即チ會社ノ營業ノ基礎ヲ危クスルコト  
ニ相成リマスルカラ、此點ニ付テ商工大臣  
ハ、市民ノ利害ト會社ノ利害ト相共ニ睨ン  
デ裁定ヲ致シタノアリマス、此間ニ於テ  
ハ、何等自ラ顧ミデ疚シイコトハアリマセヌ、  
色々ナ御話ガゴザイマシタケレドモガ、若  
シ深澤君ノ御話ノ如タ、私ノ處置ニ付テ何  
カ疑ハシイコトガアルナラバ、明カニ御指  
摘ヲ願ヒマス

ソレカラシテ割引料金ニ付テ御話ガアリ  
マシタ、是ハ既ニ料金ニ付テ至務大臣ノ認  
可ヲ要スルト云フ規定ニ相成リマスル以主  
ハ、割引料金ニ付キマシテモ、商工大臣ヲ  
認可ヲ要スル事項デアリマス、認可ヲ経ズ  
シテ割引ヲシテ居ルト云フコトハ、ソレハ  
認ムルコトハ出來マセヌ「メートル」ニ付テ  
ドウスルカト云フコトデゴザイマスルガ  
「メートル」ノ料金ハ恰モ瓦斯料金ト同様デ  
アリマス「メートル」料金ヲ無クスルモ、  
瓦斯料金ヲソレダケ上ゲナケレバ、會社ガ到  
底計算ガ出來ヌト云フコトニ相成リマスル  
カラ、是ハ「メートル」料金ヲ無クスルモ、  
リマシタガ、是ハマダ熱量制ハ主務省ニ參  
置クモ、結局使用者ノ負擔ニ於テハ、料金  
ト同様ニ見ルト云フコトガ正當デアルト思  
フノデアリマス、熱量制ニ付テノ御話ガア  
モ知レマセヌ、併ナガラ深澤君ノ御説ノ如  
ク、若シ此申請ニ手續上ノ不法ガアリマス  
テ居リマセヌ、或ハ深澤君ハ此事實ヲ豫知  
シテ居ルカ、又或ハ其手續ノ途中デアルカシ  
テ、正當ナル手續ニ依テ之ヲ矯メ直ス外  
ハナインデアリマス、而シテ熱量制ニ付キ  
マシテ、當局者ノ意見ハドウカト云フ御尋  
デアリマスルガ、是ハ能ク其申請ヲ見マシ  
タ上デ、之ニ對スル適當ナル考査ヲ加ヘ、  
處置ヲ致ス積リデアルノアリマス  
尙ホ最後ニ附加ヘテ置キマスルガ、此第  
十八條ノ第二項ヲ御引用ニサッテ、利益金

ノ處分卸却其他ニ村ヲ必要ナル命令ヲ發又  
依テ如何ナルコトヲ爲スアラウカ、或ハ  
銷却ニ専ラニサルナラバ、此銷却ヲ減ジテ、  
料金値下ノ方ニ之ヲ振向ケルト云々タ如キ  
コトヲスルカドウカト云フ御尋デアリマシ  
タ、是モ亦先ニ增資問題ニ付テ申上ゲマシ  
タ通リニ、徒ニ銷却ヲ少ナク致シマシテ、  
株式ノ配當ヲ多クスルト云フコトハ、是ハ  
單リ會社ノ不爲ノミナラズ、消費者タル市民  
ノ不爲デアリマス、銷却ヲ愈々マシテ會社ハ  
更ニ其事業ヲ繼續スルニ付テ、大ニ無益  
ナ修繕費、若クハ無益ナ設備費ヲ費ナケ  
レバナラヌト云フコトハ、是レ同ジタ其經  
費ハ市民ノ負擔ニ於テ爲ストモ兒ラレルノ  
デアリマス、ソレ故ニ銷却ニ付テモ、利益  
處分ニ付テモ、商工省ハ適當ト認ムル所ニ  
依シテ判断ヲ致シマシテ、餘リニ銷却ガ少ナ  
イトカ、乃至又其反對ニ、餘リニ銷却ヲ多  
ト考ヘテ居ルノデアリマス（拍手）

ノ値下ニ依テ元ヘ引戻スト云フコトニ付ス  
ニ行カナイノ付テハ、直チニ御同意申上ゲル譯  
瓦斯料金測定ノ條件ト致シマシテ、炭價ノ  
値下リ若クハ値上リト云フコトガ、重要ナ  
ル條件デアルト云フコトハ勿論デササイマ  
スルケレドモ、單リ炭價ノ問題ノミニ依テ  
瓦斯料金ノ裁定ヲ下スコトハ出来ナイノデ  
アリマス、人件費其他ノ問題ヲ詳細ニ考慮  
致シマシテ、今回ノ商工大臣ノ裁定ハ委當  
ヲ得タルモノデアルト確信ヲ致シテ居リマ  
ス、故ニ大正九年ノ當時ニ於キマシテハ、  
私ハ信念ニ基イテ之ニ反対シ、今回ハ色々  
ノ條件ニ依テ、今日ノ所ニ於キマシテハ、  
此程度ノ値下ヲ以テ最モ其當ヲ得タルモノ  
ト確信ヲ致シテ居ル次第デアリマス  
尙ホ將來ノ事ニ付テ色々御詰問ガゴザイ  
マシタガ、此點ハ大體ニ於テ深澤君ト同意  
見デアリマシテ、瓦斯會社ノ事業ハ勿論獨  
占事業デアリマスルカラ、獨占ノ弊害ノ  
起ツテ參リマスルコトハ、極力之ヲ防歴致シ  
タイト思ヒマス、同時ニ報償契約ノ精神、  
其他報償契約ニ類似致シマスル、東京市ト  
瓦斯會社トノ點ニ於キマスル取交ハシノ如  
キモトモ、其精神ノ在ル所ヲ尊重致シマシテ  
テ、全消費者ノ爲ニ利益ヲ擁護スル確信ヲ  
持シテ居ルト云フコトヲ申上ダマス



尙ホ各特別會計ニ於キマシテモ、其第二  
豫備金及豫備金外ニ於テ豫算外ノ支出ヲ爲  
シタモノガアリマス、何卒御審議ノ上承諾  
ヲ與ヘラレントコトヲ望ミマス（拍手）  
○議長（藤澤幾之輔君）質疑ヲ許シマス——  
藤井達也君

〔藤井達也君登壇〕

○藤井達也君 諸君、本員ハ只今政府委員ヨリ御説明ノアリマシタ昭和四年度外務省豫備金外支出調査調書追加案ニ付キマシテ、總理大臣代理兼外務大臣、海軍大臣等ニ御尋致シタイト思フノデアリマス、其金額ハ僅ニ十八万七千五百二十三圓ト云フ少額ノモノデアリマスケレドモ、此倫敦會議ノ問題ト云フモノハ、洵ニ重大ナル案件デアリマス、現内閣ガ此度豫算ヲ提出ナサレマシタ其内容ヲ見マスルト、貧弱ナルニ至ツテハ未だ曾テ何レノ内閣デモナイ程、見棄ラシイ案ヲ提出シテ居ルノデアリマス、取分ケ最モ重要ナ問題ハ、所謂倫敦會議ニ依ツテ生ジマシタ海軍ノ問題ト、國民負擔ノ輕減デアルト仰セニナリマス所ノ減稅問題、此二ツダケハ洵ニ重要ナ問題デアリマスケレドモ、其他ノ問題ニ至ツテハ、三文ノ價値モナイヤウナモノダケデアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、故ニ此處ニ出マシタ金額ハ少額デアリマスケレドモ、關聯スル所拘ニ重大ナ關係ニナルノデアリマスカラ、此際私ハ聊カ數項ニ瓦リマシテ、外務大臣或ハ總理大臣代理ニ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、ケレドモ總理大臣代理ニ致シマシテモ、御承知ノ通リノ失言カラマスカラ、此處ニ御招キシテモ出ルコトモ全ク落第生ニナリ、戰々兢々トシテ、或ハ貴族院ニ、或ハ衆議院ニ、恰モ薄氷ヲ履ムヤウナ心持デ、ウロノシテ居ルノデアリマスカラ、此處ニ御招キシテモ出ルコトモ出來マスママイカラ、永井政務次官ノ御答辯デモ結構デアルト茲ニ申上ゲテ置クノデアリマス

シニ依テ競争的軍備ニ常ニ伴フ危險ヲ防シ、且ツ負擔ヲ輕減セントヲ希望スト云  
フ、此趣意ノ目的ノ下ニ此會議ガ開カレタト思フノアリマスケレドモ、此議會ニ於  
キマシテ、倫敦條約ノ結果ニ依ル海軍ノ國  
防、竝ニ國民負擔ノ輕減ト民政黨が唱ヘテ  
居リマス稅制ノ問題等ヲ考ヘテ見マスルト、  
倫敦條約ニ依ル國防計畫ト云フモノハ、國  
防ヲ不安ニコソナラシメマシタケレドモ、  
決シテ我國ノ國防ハ之ニ依テ安全ナリト考  
ヘルヤウナ人ハ一人モアリマスマイ、唯  
僅ニ二百七十名ノ、世間カラ所謂質造ナド  
ト言ハレマス代議士諸君ダケニ過ギヌノデ  
アリマス、他ノ國民ハ皆一様ニ、倫敦條約  
ニ依テ國防ニ不安ヲ來シタモノデアルト  
云フコトデ、津々浦々ニ至ルマデ、一齊ニ  
言論ヲ以テ現内閣ヲ彈劾シツ、アルト思フ  
ノデアリマス、又國民負擔ノ輕減ダト仰セ  
ニナリマスルガ、現内閣ハ其與黨デアリマ  
スル民政黨、元ノ憲政會時代カラシテ、國  
民負擔ノ輕減ヲスルト盛ニ御宣傳ニナッテ  
居リマシタケレドモ、若シ夫レ倫敦條約ナ  
カリセバ、殆ド現内閣ト云フモノハ半文ノ  
減稅モ出來ナカッタモノデアルト思フノデ  
アル、辛ウジテ現内閣成立シマシタ其好機  
會ニ於キマシテ、倫敦會議ニ遭遇シタノデ  
アッタレバコソ、之ヲ利用致シテ、國防ニハ  
無理ニ缺陥ヲサセナガラ、海軍ヲ壓迫シテ、  
捩リ込ンデ出サシタモノハ一億三千四百万  
ト云フ、恰モ雀ノ涙ノヤウナ、二階カラ目  
藥ヲサスヤウナ、此減稅ヲヤッタモノデアル  
ル、多年主張シマスル民政黨、元ノ憲政會  
時代ノ減稅ノ趣旨ト其目的トハ、根本的ニ  
相違シテ居ルノデアルト謂ハザルヲ得ナイ  
ノデアリマス（拍手）

至ルモノト考ヘザルヤ否ヤト云フコトヲ御尋致シタイト思フノデアリマス、何故之ヲ御尋スルカト言ヒマスルナラバ、民政黨ノ諸君、現内閣ノ人々ダケハ、倫敦條約ハ成功ノヤウナコトヲ宣傳シマスルケレドモ……

〔議長退席、副議長署席〕  
心ノ奥底カラ良心ニ懇ヘマシテ、倫敦條約ハ大ナル成功デアッタ、國防ニ不安ガナカツタナドト云フヤウナ、大キナコトヲ言ヘル人ハナイト私ハ思フノデアリマス(拍手)恐ラク海軍當局ニシマシテモ、外務省ノ諸君デモ、此倫敦條約ハ失敗デアル、唯之ヲ補充ノ途ニ依テ辛ウジテ胡麻化スト云フコトガ、其良心ニ懇ヘテ浮ビ出マスル所ノ私ハ結論デアルト思フノデアリマス(拍手)  
此見地カラ考ヘマシテ、亞米利加ハ倫敦條約ニ關シテ、其成功ヲ誇シテ居ルカト云フコトヲ申述べマスルコトガ、最モ必要ト思フノデアリマス、亞米利加ハ大成功デアル、倫敦條約ニ依テ國防ニ充實ガ十分出来タモノデアル、決シテ此國防ニ依テ、今後日本ト戰フヤウナ際ニ當リマシテモ、亞米利加ハ必ズ日本ト云フモノヲ壓迫スルコトガ出来ルモノデアルト云フコトヲ、堂上ト亞米利加ノ議會ニ於キマシテ開明致シテ居ルト致シマスルナラバ、一面ニ於キマシテ我國ノ國防上ニ非常ナル缺陷アレバコソ、亞米利加ハ斯ノ如キ論斷ヲ下スモノデアルト私ハ信ズルノデアリマス(拍手)此見地ヨリシテ私ハ暫クノ間亞米利加ノ上院ノ外交軍縮委員會ニ於テ發表サレマシタ、其敗ヲ來シタカト云フコトヲ明瞭ニ致シマスルコトハ、代議士デアル吾々ノ本分デアルテ、如何ニ亞米利加ハ倫敦條約ニ成功致シテ、隨テ日本ハ倫敦條約ニ依テ非常ナル失敗ヲ來シタカト云フコトヲ明瞭ニ致シマスルコトハ、代議士デアル吾々ノ本分デアルト同時ニ、國民ヲシテ十分之ヲ知悉致サセマシテ、將來ニ於テ此倫敦條約ダケデハ我

國ノ國防ハ不安デアルカラ、吾々ハ一大決心ヲ致シ、一大努力ヲ致シテ、亞米利加ノ國防ニ對抗シナケレバナラヌ、國防ヲ充實セシメンガ爲ニハ、飽クマデ吾々ハ此際米國上院ノ狀況ト云フモノヲ論議スルコトガ、最モ必要ナリト固ク信ズルノデアリマス。昨年ノ五月十二日、月曜日デアリマス、米國外交軍縮委員會ニ於キマシテ、國務長官ノ「スチムソン」ハ次ノヤウナコトヲ堂々ト辯明シテ居ルノデアリマス、倫敦軍縮會議ニ於テ米國代表ガ集シテ、餘程馬鹿氣タ「パリティー」ヲ作レル結果、日本ノ海軍力ガ著シク優勢ヲ示スヤウナコトニナラズ、大西、太平兩洋ヲ隔テダ米國ガ、日英兩國カラ脅威ヲ受ケルヤウナコトハ絶対ニナク、全ク安全デアルコトハ、全米國海軍權威者ノ一致シタ見解デアルト自ラ誇テ居ルノデアリマス、諸君、之ニ反シテ我國ノ全權委員諸君デモ、海軍當局デモ、或ハ政府當路者デモ、此倫敦條約ハ寔ニ國防ニ缺陷ヲ來シ不安デアル、之ヲ補充スル辛ウジテ途ガアルナゾト云フコトデ、憲テフタメイテ居ルニ反シマシテ、米國ニ於キマシテハ、堂々此條約ニ依シテ、米國ハ全ク太平、大西兩洋ニ安全デアルト得意ニナッテ居ル點ヲ考ヘマシテモ、如何ニ倫敦條約ハ慘メナ結果ヲ我國ニ來シタモノデアルト云フ、一ツノ證據ニナルト私ハ思フノデアリマス（拍手）更ニ之ヲ細カニ別ケテ見マスルト、例ヘバ主力艦ニ付キマシテノ「スチムソン」ノ明瞭ナル演説ニ依リマスルナラバ、北米合衆國ハ艦齡二十年ノ戰艦ガ二隻、艦齡十九年ノ戰艦ガ三隻、英國ハ艦齡十七年ノモノ五隻、日本ハ艦齡十七年ノモノ一隻ヲ廢棄スルモ、是等ハ艦齡ヲ比較スル時、何レモ米國ニ取シテ有利デアルト云フコトヲ申シテ居ル、主力艦ノ問題ニ關シマシテモ、米國自ラハ其艦齡ヲ比較致シマスル時ニ、日本

ヨリモ亞米利加ノ艦齡ハ古イノテアリマス  
ルカラ、若イ艦齡ヲ日本ヲシテ之ヲ廢艦セ  
シメタト云フコトハ、一ツノ成功デアルト  
云フコトヲ申シテ居ル、此一點デモ主力艦  
ニ於テ、先ヴィノ一番ニ失敗シタモノデア  
ルト云フコトハ明瞭ナリト私ハ論斷スルノ  
デアリマス

然ラバ驅逐艦ニ關シマシテハ如何ナルコ  
トヲ申シテ居ルカト申シマスナラバ、驅逐  
艦ハ英米兩國トモ五十万噸ニ決シタルモ、  
米國ハ本條約ニ依テ多大ノ利益ヲ得タ、殊  
ニ委員諸君ノ御注意ヲ促サントスルモノデア  
ル、我が驅逐艦ハ廢艦ト同時ニ建造スル、  
廢艦年齡ニ達スルノデアリマスカラ、隨テ  
此條約ニ依テ代換建造ノ時期ト云フモノ  
ハ、普通代換建造ノ時期ヨリモ長期ニ亘ラ  
テ造換ヲスルコトヲ得ルノミナラズ——此  
後ノ事ガ必要デアリマスカラ、能ク耳ヲ洗  
テ民政黨ノ諸君へ御聽き願ヒタイト思フノ  
デアリマス、尙ホソレヨリモ好都合ノ事ハ、  
此條約ガ締結サレザレバ、條約終了ノ時  
期タル千九百三十六年十二月三十一日ニ於  
テ、我ガ驅逐艦ノ艦齡ハ、普通ノ慣習ニ從  
フナラバ現有二十九万噸中僅ニ廢艦年齡ニ  
達セザルモノハ一万四千噸ニ過ギヌノデア  
リマスト言明シテ居ル、驚クベキ條約デアル  
ト言ハネバナラヌノデアル、サスレバ亞米  
利加ハ千九百三十六年ニ當リマシテ、二十一  
九万噸ノ艦ノ中デ艦齡ニ達シナイト云フモ  
ノハ、僅ニ一万四千噸ニ過ギナインデアル、  
千九百三十六年ニナリマスト、亞米利加ハ  
當然此驅逐艦ト云フヤウナモノハ廢艦年齡  
ニ達シマスルカラ、殆ド大部分ト云フモノ  
ガ、九割七分マデハ之ヲ廢棄シナケレバナ  
ラヌ、廢艦ニシナケレバナラヌコトニナクタ  
ノニ、丁度好イ配接ニ日本ガ此倫敦會議ヲ  
開キマシタカラ、好機到レリトシテ、茲ニ  
十五万噸ト云フ計畫ヲ致シマシタカラ、新  
シイ艦ガ亞米利加ニハ出來ル、茲ニ又廢艦  
シマスルモノヲバ、當然廢艦セネバナラヌ

モノヲ艦船スル代リニ、新シイ軍艦ヲ十五  
万噸造ルヤウニナシタノ御託宣デアルト考ヘルノ  
國ト致ンマシテハ、倫敦條約ト云フモノハ、  
誠ニ有難イ神様ノ御託宣デアルト考ヘルノ  
デアリマス、而モ此御話中ニ、換言スレバ  
我國ハ當時老朽ナル「ウオーバード」ヲ有  
スルニ過ギズ、驅逐艦代換建造ハ恐シキ大  
問題デアリタノデアルト、米國ノ「スチムソ  
ン」ハ言テ居ル所ヲ考ヘマシテモ、驅逐艦  
ノ問題ハ米國ニハ非常ナ有利ナ地位ヲ與  
ヘ、且ツ其財政上ノ問題カラ見マシテモ、米國  
ノ利益ハ莫大デアル、日本ハ結局米國ニ利  
益ヲ與ヘテ、却テ日本自ラ國防上ノ缺陷ノ  
結果不安ヲ來シタモノデアルト云フコト  
ハ、明瞭デアルト謂ハザルヲ得ナイノデア  
リマス

ラ又所ノ軍艦ト云フモノヲ、條約ニ依シテ茲ニ新ニ建造スルコトガ出來タノデアリマスカラ、是亦米國ノ利益デアルト云フコトハ言フマデモナインデアリマス、日本ノ軍艦ハ潛水艇ニシテ千九百三十六年マニニ廢艦ニナルヤウナモノハ、幾ラアルカト云フコトヲ吾々ガ考ヘテ見マシテモ、全ク亞米利加ガ殆ド其八分、九分通リマデ廢艦ニナルモノト比較シマス時ニハ、全ク利益ト云フル點ニ於テ雲泥ノ差、塵壤ノ差以上デアルト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス、此點カラ考ヘマシテモ、全ク我國ト云フモノハ潛水艇ノ問題ニ關聯致シマシテ、國防上ニ不安ヲ來シタバカリデナク、却テ米國ニ甚大ナル利益ヲ與ヘタモノデアリマスルガ、尙ホ是デモ政府自ラガ潛水艇ニ關シマシテ國防上ニ不安ガナリ、我國ガ利益ヲ得タナドト

ハ明カニ總括的七割ノ提案ヲシタルモ、英米兩國ニ依リテ認容セラレナカツタ、而シテ日本軍艦ノ今日ノ實情ヲ見、相互ノ巡洋艦ノ關係ヲ考慮スレバ、當時米國ハ水上ニ浮べル一隻ノ八吋砲巡洋艦ヲ所有シ、一隻ハ將ニ竣成セントシタルモ、五隻建遣中ノモノハ單ニ著手シタルニ遇ギナカツタ云フコトヲ申シテ居ル、謂ハゞ倫敦條約、此何百万圓ト云フ金ヲ使ツテ倫敦條約ニ參ツテ、或ハ若観全權ニシテモ、財部全權ニシマシテモ、大法螺ヲ吹イテ倫敦ニ參リマシタ當時ニ、亞米利加ノ軍艦ハ幾ラアルカト云ヘバ、一艘ハ唯現有ヲ致シ、將ニ竣成セントスルモノガ一艘アリ、五艘ハ單ニ建造ニ著手シタダケデアツノデアル、謂ハゞ實際海ニ浮ンデ居ツタ軍艦ト云フモノ、八吋砲巡洋艦ト云モノガ一艘デアツト云フコトヲ、能クノ

次  
三 潜水艦ニ付テ 説明カアリマシタカ  
是ハ重大ナ問題デアリマスカラ、君等ノヤ  
ウナ人方ガソソナ事ラヤッテ居ル暇ニ、一刻  
一刻我國ノ國防ノ不安ト云フモノハ來シテ  
居ルノダカラ、暫ク黙ッテ聽キ給ヘ——潜水  
艇ハ私ガ申スマデモナク、四面海ヲ以テ環  
ラサレテ居リマス我ガ海軍國ト致シマシテ  
ハ、洵ニ重要ナコトハ、諸君ト共ニ何等意  
見ノ相違ガナイノデアリマス、然ルニ此潛  
水艦ニ付テ「スチムソン」ノ米國上院ニ於ケ  
ル議論ヲ見マスト、次ノヤウナコトヲ言明  
シテ居ルノデアリマス、潛水艦ニ於テモ利  
益ヲ得タコトハ驅逐艦同様デアル——驅逐  
艦同様デアルト云フコトヲ能ク御承知願ヒ  
タイノデアル、本條約ハ日、英、米對等ト  
ナタノデアルガ、我ガ潛水艦ハ目下驅逐艦  
同様ノ實情ニアル、殆ド廢艦同様ノ實情ニ  
アルノデアル、千九百三十六年ニハ廢艦年  
齡ニ達セザルモノハ、僅ニ二万二千噸デア  
ルト云フコトヲ明瞭ニ申シテ居ル、九万噸  
ノ潛水艦ノ中ニ、千九百三十六年ニナリマ  
スルト、廢艦トナラザルモノハ僅ニ二万二  
千噸ニ過ギナカツタノデアリマスルガ、倫敦  
條約ノ結果ニ依リマシテ廢艦ニナラネバナ

云フヤウナ寢言ヲ語テ居ルヤウデハ、一日一刻々々ト我ガ國防ニハ不安ガ來スモノデアルト云フコトヲ斷言シテ憚ラヌノデアリマス(拍手)是カラヤカマシイ八吋砲大型巡洋艦ト六時砲大型巡洋艦ニ關シテ説明シマスルカラ、是亦十分諸君ノ御謹聽ヲ願ヒタイト思フノデアル、諸君是ハ御承知ノ方モアリマセウ、是ハ私自身ガ右委員會ノ速記ノ原本ヲ見マシテ、自分で翻譯シタノデアリマスカラ、私ノ言ヒマス所ニ誤ガアツナラバ御訂正ヲ願ヒタイ、併シ失禮ダガ諸君ガ翻譯シタモノヨリモ、藤井達也ノ翻譯シタモノ、方ガ餘程立派ダト確信致シマス、是ハ少シ長クナリマスガ、國民一般ニ知ラセル必要ガアリマスカラ、此際其内容ヲハッキリト朗讀致シ、速記録ニ依リ、又新聞ニ依リマシテ國民全體ニ深ク知ラセ、而シテ此條約ト云フモノガ、如何ニ亞米利加ニ有利ニシテ、我國ノ失敗デアタカト云フコトヲ、却ツカリ知ラセル必要ガアリマス故ニ、此處デ倫敦條約ノコトヲ論ズルノデアリス、「スチムソン」ガ曰ク、此會議デハ日本

國民ガ承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、日本ハ八艘ノ八時砲巡洋艦ヲ有シ、尙ホ四艘ハ近ク完成セントシ、總計ニ於テ二艘ヲ有シテ居ル、六時砲巡洋艦ニ於テハ、米國ハ七万噸ヲ所有スルニ過ギザルモ、日本ハ九万八千噸ヲ所有シテ居ルノデアル、六時砲巡洋艦ニ於キマシテハ、米國ハ僅ニ七万噸シカ所有シテ居ナイケレドモ、日本ハ九万八千噸ヲ所有シテ居タノデアリマス、故ニ米國ノ日本ニ求メントスル重點ハ、六箇年間ニ米國ガ十五艘ノ八時巡洋艦ヲ日本ノ十二艘ニ對抗シテ建造シ日本ヲ凌駕シ、更ニ三艘ノ巡洋艦ヲ千九百三十六年マニ完成セシムルコトノ目的ヲ以テ倫敦條約ヲ開イタノデ、之ニ乘シテヘマナ條約ヲシテ來タコトハ失敗デアルト吾々ハ言フノデアリマス（拍手）六時砲巡洋艦ニ關シテハ、米國ハ現在現有セル七万噸ヲ十四万四千噸ニ増加シ——諸君、六時砲巡洋艦ハ僅ニ七万噸シカ亞米利加ハナカタノデアリマス、然ルニ之ヲ十四万四千噸ニ増加シタト云フコトニナリマスルナラバ、謂ハマ亞米利加ハ六時砲巡洋艦ニ於キマシテ、七万四千噸ノ

ト謂ハネバナラヌノデアル、駆逐艦ノヤウナ、銀座通リノ夜店ノガラクタ道具ノヤウナモノヲ澤山貰<sup>シテ</sup>來テ、八時砲ニスペキカ、六時砲ニスペキヤト云フコトガ、現在世界ノ海軍ニ於キマシテ重要ナル論點ニナシテ、何レガ優勢デアルカ、其優劣ガ今猶未決定シナイヤウナ此大問題デアリマスル六時巡洋艦ニ關シマシテハ、七万四千噸モ與ヘテ來タト云フコトガ、何ヲ以テ我國方海軍條約問題ニ關係シテ成功セリナド、云フコトヲ言フコトガ出來マスルカ、不思議千萬ニ考ヘルノデアリマス（指手）之ヲ成功ナドト云フヤウナ方々ハ、民政黨ノ代議士ニハアルマイケレドモ、之ニ譯歌スルヤウナ者ハ大體不能兒カ、糞鳴ノ病院ニ通ハセネバナラヌト思フノデアリマス、而シテ日本ハ然ラバ六時巡洋艦ニ付キマシテ、幾許ヲ貰<sup>シ</sup>タカト云フコトニ關シテノ説明ヲ見マスト、日本ハ現有九万八千噸ヲ僅ニ二千噸ヲ増加シテ十万噸ニ達シタモノノデアル、大切ナル八時巡洋艦ニ付キマシテハ、御承知ノ如ク非常ナル國防上ノ不安ヲ來スヤウナ、七割ヲ外レマスル比率ヲ得テ、六時巡洋艦ニ關シマシテハ、ソレデモ何カ大變チ大成功デモシテ來タカノヤウニ政府ガ宣傳シ、六時巡洋艦ニ依<sup>テ</sup>國防上ノ不安ト云フモノヲ一掃スルコトガ出來ルト期待セシメタニ拘ラズ、驚ク勿レ現有九万八千噸ノ上ニ僅ニ二千噸ダケヲソレデモ何カ大變チ大成功デモシテ來タカナイ、亞米利加ノ全權ガ言フノダカラ、文書ガアルナラ亞米利加ノ全權ニ文句ヲ言<sup>フ</sup>テ貰ヒタ伊所ノ海軍當局デアリ、全權諸君デアルト言ハネバナラヌ、是ハ私ガ言フノデシムルニアル、「スチール、スタンド」、静カニ足踏ミサセラレルヤウナ條約ヲ結ン國ガ日本ヲ凌駕スルマデ、彼ヲ單ニ足踏ミシムルニアル、來<sup>テ</sup>喜<sup>シ</sup>ニ居ルノデアリマス、謂ハ<sup>シ</sup>テ來マシタカラ、米國ノ「スチムソン」ガ堂議會ニ於テ、日本ヲシテ足踏ミセシムル

モノデアルト公言サレマシテモ、厚顏無恥ナル全權竝ニ外務當局ハ、此條約モ満足ウケレドモ、米國自身ノ方デハ日本ヲシテ足踏ミセシムルノデアル、暫ク立タシテ居ルノデアル、「マラソン」競走ナラ、其邊ニウロ／＼立タシテ置イテ、自分ノ方ハドンソレヲ凌駕シテ競走スルモノデアルトドンソレヲ凌駕シテ競走スルモノデアルト云フヤウナコトニナリマスルナラバ、如何ニ此條約ニ於キマシテ我國ガ不利益ヲ被シタカト云フコトハ、此事實一ツヲ捉ヘマシテモ、立派ニ失敗ナリト云フコトガ明カナリト思フノデアリマス(拍手)  
此後ニ、最後ノ文句ガアリマスカラ、此文句ヲ約メテ申シマセウ、日本代表ヨ、全米國代表ハ是等ノ事ニ依テ、日本代表及ビ日本政府ニ未曾有ニシテ甚大ナル讚美ヲ呈シタトアル、諸君、外交上ノ折衝ニ當テ、外國カラ讚美ヲ表サレル時ニハ、必ズ讚美ヲ表サレタ國ガ失敗デアルト云フコトヲ吾ハ思フノデアリマス、外務大臣ノ弊原君ノ如キハ、何カ云フト世界ノ平和ノ爲デアルル、親善ノ爲デアル、而シテ支那カラデモ、露西亞カラデモ、或ハ米國カラデモ、拍手喝采サレ、バ、外交ガ一大成功デアルト御考ヘニナルコトガ、根本ノ闇達デアルト申スノデアリマス、此條約ニ關シマスル「スチムソン」ノ演説ヲ見マシテモ、日本ニ讚美ヲ與ヘルモノデアルト云フコトヲ堂々明言シマスル以上ハ、讚美サレルグケ、日本ガ倫敦條約ニ於キマシテ米國ニ讓歩ヲ致シ、米國ニ有利ナル地位ヲ與ヘタカラ、向フガ讚美ヲ與ヘルモノデアルト説明セザルヲ得ナイノデアリマス、更ニ「スチムソン」ハ米國ガ日本ヲ凌駕スルマデ、日本ハ自ラ拘束條約ヲ締結シタル日本政府ハ、容易ナラザル難關デアッタノデアルト、是亦非常ニ同情

同情ト效果トハ喜ブカモ知レマセヌケレドモ、  
外務當局ハ喜ブカモ知レマセヌケレドモ、  
ダケデ喜ブコトガ外交デハアリマセヌ、同  
情サレナクテモ、有利ナ條件、有利ナ權益  
ヲ吾々ガ持ツト云フコトガ、外務當局トシ  
テ當然執ラネバナラ又所デアルニ拘ラズ、  
唯徳ニ彼等カラ容易ナラザル難局デアッタ  
ナド、同情サレバ、世間ハ「ロボット」サン  
トカ何ト方言ヒマスガ、所謂外務大臣ノ如  
キハ如何ニモ得意ニナッテ、外國ト親善ガ出  
來、或ハ米國ノ非常ナル讚美ヲ得タモノト  
喜ンデ居リマス、茲ニ開達ガ出來ルノデア  
リマス

現ニ此議會開會當時何ト言々タ、移民問題  
ニ付テハ、暫ク此移民問題ヲ靜觀シ、サウ  
シテ興味アル結果ヲ見ヨウナド、云フヤウ  
ナ御演説ニナッテ居ラレマスケレドモ、何處  
ニ興味アル結果ガ來マス、現ニ米國ノ上院  
ニ於テハ、日本ノ移民問題ハ尤デアル、同  
情スルケレドモ、此移民ガ米國ニ入ルコト  
ハ絶對御斷リ致シマスト拒絶シテ居リマ  
ス、日本ノ移民問題ニハ同情モスル、御氣  
ノ毒ダケレドモ、併シ同情ト此移民トハ別  
個ノ問題デ、之ヲ混同スル譯ニハ參ラヌノ  
デアル、同情ハ同情デアルケレドモ、移民  
ノ入ルコトダケハ御斷リ致シマスト米國ノ  
上院、下院ニ於キマシテ是ガ決定サレテ居  
ル所ヲ見マシテモ、同情ダケデ喜ブヤウナ  
外務大臣デハ、我國ヲ代表シテ一國ノ外交  
ヲ預カル資格ガナイト私ハ考ヘテ居ルノデ  
アリマス

更ニ最後ノ「スチムソン」ノ言葉ガ實ニ妙  
味ヲ以テ吾々ハ迎ヘナケレバナラヌ、此難  
關ハ議論ヲ以テ律シタリ、財政上、經濟上  
ノ事情ニ依テ法律シ能ハザルベク、如何ナル  
貧弱國ト雖モ、製艦競争ヲ以テ威壓サレ  
モノデハナイノデアル、予ハ此條約ニ關シ  
テ日本政府ニ敬意ヲ表シ、脫帽スルモノデ  
アルト云フノガ、最後ノ言葉ニナッテ居リマ

ス吾々御互が外國ニ參りマシテ、外國人ガ吾々ニ脫帽スルト云フ時ニハ、全ク心カラ自分ノ利益ニナル、而モ此利益ノ表情ヲセンガ爲ニ「シイク・ハンド」ニ代ヘテ脱帽ヲ致スノデアリマス、然ラバ「スチムソン」ガ議會ニ於テ堂々日本ニ對シテ脱帽スルト云フヤウナ、此言葉一ツヲ捉ヘテ考ヘマシテモ、現内閣ノ倫敦條約ナルモノハ、亞利加ニハ甚ダ有利デアッテ、日本ガ其有利ヲ能ク忍ビ、國防ニ不安ヲ來セルノモ我慢シテ吳レタカラ、之ニ敬意ヲ表シテ脱帽シタモノデアルト、最後ニ論結ヲシタモノデアリマス（拍手）

諸君、此「スチムソン」ガ言ヒマシタ此簡單ナ、彼ノ議會ニ於キマスル答辯ヲ見マシテモ、全ク倫敦條約ナルモノハ非常ナル大失敗デアル、其結果ト致シマシニテ洵ニ將來ニ不安ヲ懷クノデアリマス、一國々々相互通ノ間ニ於キマシテ、戰爭ノ不安ヲ除去スルト云フ場合ニハ、其兩國共國防上ニ於テ不安ガナク、互ニ對立カ出來マスレバコソ、一國ガ他ニ向シテ戰爭ヲ開始セヌノデアリマス、御互ニ世界ノ國々ガ今ヤ混沌タル狀態ニ陥テ居ル、現内閣ハ世界ハ平和デアルト云フヤウナ御演説ニナシテ居リマスルケレドモ、吾々ハ斯ク呑氣ニハ考ヘテ居リマヌ、永井政務次官モ御出デアリマスガ、今歐洲ノ現狀ヲ考ヘテ御覽ナサイ、「ヴエルサイユ」ノ條約ハ世界ノ不安ノ土臺ヲ作ッテ居リマスカラ、戰敗國ノ獨逸ニシテモ、或ハ壞地利ニシテモ、其他ノ諸國ニ至ルマデ、戰敗國ガ「ヴエルサイユ」條約ニ依シテ被リマシタ幾多ノ條約ニ依シテ被リマシタ幾多ノ條約上ノ不利益ト云フモノヲ、何トカシテ恢復致シ尙又「ヴエルサイユ」條約ニ依テ國防上幾多ノ制限ヲ被シタモノヲ撤廢致シタイ、現下ノ條約ヲ破棄シタイト云フ氣運ガ盛ニ在ルコトハ、恐ラク外務政務次官モ御承知ノコト、思フノデアリマス、之ニモ聯繫シテ尙ホ佛蘭西ト伊太利ノ間ニ於キマ

ブル地中海上ノ問題、及ビ國防上ノ問題、或  
ハ波蘭ト獨逸ノ間ニ於キマシテモ、相當様  
様ナル是等ノ不安ト云フモノガアツ、互ニ  
己レニ有利ナ國々ト提携シテ、自分ノ不利  
益ナル國ヲ擊破シヨウト云フヤウナ氣分ハ、  
澎湃トンテ起シテ居ルノデアリマス、此條約  
上ノ問題バカリデナク、現内閣ハ何カト云  
フト、ヤレ世界的ノ不景氣ダ、満洲問題ヲ  
言フト、満洲ノ空氣カ惡イナドト外務大臣  
ガ言フガ、現内閣ノ財政計畫ト言ヘバ、風  
ノ話デ胡麻化シテシマヒ、外交ノコトヲ言  
ヘバ空氣デ以テ胡麻化スカラ、此内閣ハ攬  
ミ所ガナイ、サウ云フヤウナ狀態ニナッテ居  
リマスガ、要スルニ世界ノ不景氣ノ結果、經  
濟戰ト云フモノガ猛烈ニナリ、或ハ關稅問題ヲ  
ニ關シマンテモ、列國互ニ相食ムヤウナ狀態  
勢ニナッテ居ルノデアリマスカラ、此氣運ト  
云フモノハ容易ニ吾々ハ鎮壓スルコトガ出  
來ナイト思フノデアリマス、然ラバ此度ノ  
倫敦條約ニ依シテ、亞米利加自體ト云フモノ  
ハ、非常ニ有利ナ地位ヲ占メタト云フコト  
ヲ言明シテ居ル、サウ言フト民政黨ノ外務  
大臣ノ幣原君ガ曰ク、イヤ亞米利加ハ八時  
巡洋艦ニ關シテハ、亞米利加ノ既定計畫ハ  
二十三隻デアッタノガ十八艘ニナッタカラ、  
コヘデ五万噸ダケ少クナッタデハナイカト  
云フコトヲ、貴族院ニ行シテ放言シテ居ル、是  
ハ意外ナコトデアルト吾々ハ考ヘルノデア  
ル、成程八時巡洋艦ニ關シマシテハ、五万  
噸ダケ少クナッタデアリマセウケレドモ、先  
程申シマシタ通り、六時巡洋艦ニ關シテハ、  
向フノ方ガ七万噸デアッタノガ、十四万二千  
噸ニナリ、七万二千噸増加致シタノデアリ  
マスカラ、八時巡洋艦、六時巡洋艦ヲ合セ  
テ比較致シマシテモ、亞米利加ノ方ト云フ  
モノハ二万二千噸ノ増加ニナッタノデアリ  
マス、斯ウ云フヤウナ幾多ノ缺陷ヲ來シタ  
ノデアリマスカラ、私ハ却テ米國ト日本ノ  
間ニ於キマシテハ、現在以上將來ニ於キマ  
シテ、此兩國間ノ戰爭ヲ惹起スル所ノ虞ガ

アルト考ヘルノデアリマスガ、外務當局ハ如何ニ御考ニナリマスカ、此點ノ答辯ヲ第一ニ御願シテ置キタイノデアリマス  
第二ノ質問ハ、政府ハ千九百三十五年ニ開カルベキ軍縮會議ニ於テ、倫敦條約締結ニ依リ、我ガ海軍力ノ劣勢ヲ、再び條約前ノ如ク回復シ得ル確信ガアルカ否カト云フコトデアリマス、謂ハゞ一言ニシテ申シマスト、千九百三十五年ニ再び開カルベキ軍縮會議ニ於テ、此劣勢ニナッタモノヲ回復シ得ル確信アリヤ否ヤト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス、是ガ重大ナ問題デアルト思フノデアリマス、之ニ付テ何カ言フト、若櫻君ニ致シマシテモ、亦民政黨ノ代議士諸君デモ、今幾分海軍力ガ少クナッタト、千九百三十五年ニナツタ時ニハ、再び軍縮會議ガ開カルレルカラ、其時ドン／＼勝手ニ取シクラ宜イデハナイカト云フヤウナ演説マデシテ居ル（發言スル者アリ）ガヤ／＼諸君ガ言フテモ、若櫻君ナドハ青年會館デサウ云フ御演説ガアツカトヲ承知シテ居リマス、反對黨ノ政友會デハ、倫敦條約ハ失敗シタ、國防ノ不安ガアルト云フヤウナコトヲ言フガ、千九百三十五年マデ不安ガナイノデアル、現ニ諸君ヲ代表シテ居ル政府當局ハ、皆サウ言フデヤアリマセヌカ、濱口雄幸氏ニシテモ、幣原外務大臣ニシテモ、海軍大臣ニシテモ、其他五月人形ノヤウニ竝ンデ居リマス各大臣モ、千九百三十五年マデハ不安ガナイノデヤナイカ、千九百三十五年ニ不安ガアレバ其際幾ラデモ取フタラ宜イデヤナイカト云フヤウナ放言ラシテ、國民ノ或者タケヲ喜バシテ居ル、喜ンデ居ル者デアツテモ、先づ大體民政黨ニ凝リ／＼ノ黨員ダケ、兎ニ角喜バシテ居リマス、ソレダカラ私ハ外務大臣ニ言フノデアル、千九百三十五年ニ再び開カルマス所ノ軍縮會議ニ於キマシテハ、此劣勢ニナッタモノヲ元ノ儘ニ回復スルコトガ出來ルカ、謂ハゞ現内閣ガ倫敦ニ全權ヲ派遣スルニ當リマシ

テ、補助艦ニ關シマシテハ總括的ニ七割、  
大型巡洋艦ニ關シマンテハ七割ト云フコト  
ヲ主張シテ、潛水艇ニ關シマシテハ現狀維  
持ト云フコトヲ御主張ニナックノデアリマ  
スガ、此御主張ニナックコトヲ拠棄致シテ、  
吾々國民ヲシテ國防不安ナリト憂ヘシメネ  
バナラヌヤウナ狀態ニ陷ラシメナガラ、再  
ビ之ヲ回復スルコトノ御考ガアルカ否カト  
云フコトデアリマス、是ハ十分研究セネバ  
ナラヌ所ノ重大ナル案件デアルト、吾々ハ  
考ヘルノデアリマス、此點モ私ハ、米國側  
ノ此次ニ來ルベキ會議ニ對シマスル、米國  
全權竝ニ米國委員ノ言明ト云フモノヲ諸君  
ニ申上げテ、再び軍縮會議ヲ開キマシテモ、  
決シテ我國ガ再び此劣勢ヲ回復スル主張ト  
云フモノハ、貫徹スルコトガ出來ナイ、殆  
ド絶望ダト云フコトヲ考ヘマスノデアリマ  
スカラ、私ハ此點ニ關シマシテ、米國當局  
諸君ノ言明ヲ諸君ニ紹介シテ置ク必要ガア  
ルノデアリマス、而シテ又政府委員ヨリマ  
シテ詳細、米國ガスノ如キ大言壯語ヲシテ  
居ルコトニ對シマシテ、如何ナル將來ノ準  
備ガアリ、御決心ガアルカモ承テ置キタイ  
ト思フノデアリマスカラ、此點ヲ私ハ質問  
シテ見タイト思フノデアリマス

レドモ、亞米利加ハ又同様ニ其權利ヲ保持スルモノデアルト、ハッキリ申シテ居ル、謂ハゞ現在ナラバマダシモ、亞米利加ハ飽マデ日本ニ對抗シテ、或ハ若シ日本ガ從ハナカツタナラバ、此條約遂行ノ爲ニハ戦争モ辭セナイト云フ威嚇ヲ致シマシテモ、現有勢力カラ考ヘマストキニハ、亞米利加ハ現在デハ日本ニ向シテ其最後ノ壓迫モ、威壓モ、脅喝モ出來ナイノデアリマス、ケレドモ千九百三十五年ニナリマス時ニハ、既ニ亞米利加ノ大型巡洋艦ニ關シマシテモ、其他ノ軍艦モ、十分整備サレルノデアリマスカラ、其際ハ倫敦條約ニ於テ執リマシタ態度以上、強硬ナル態度ニ出テ來ルモノデアルト考ヘマスガ、政府當局ハ之ヲ如何ニ御考ニナツテ居ルノデアリマスカ、現ニ此事ハ今「リード」方言ヒマシタ通り、吾々ハ同様ノ權利ヲ保持スルノデアル、現在ニ於キマシテハ、マダ僅カナアノ八時巡洋艦ノ微弱ナル勢力ヲ持ツノデアルガ、十八艘ト云フヤウナ權利ヲ得タカラ、既ニ千九百三十五年ニ於テ總テノ軍艦ノ整備ガ完成致シ、總テノ準備ガ出来タ際ニハ、彼等ハ決シテ日本ニ應ズルモノデナイコトハ、茲ニ地球大ノ判ヲ抑シテ私ガ明言シテ憚ラヌノデアリマス尙ホ言葉ヲ續ケテ言フニハ「余ハ次ノ會議デ日本ガ各艦種ニ對シ七割要求ヲ繼續スルコトヲ豫期シテ居ル」向フハチャント政府ガ御言明ニナラナクテモ、千九百三十五年ニハ再び七割ノ要求ヲスルモノデアルト喝破シテ居ルノデアリマス、向フノ外交官ト、日本カラ參リマシタ若槻君デアルトカ、財部君デアルトカ云フヤウナ官僚上リヤ、或ハ軍事専門ダケデ、世間ノ實際ヲ知ラナ人トハ異ナリマシテ、「リード」ニシテモ「スチムソン」ニシテモ、酢デモ蒟蒻デモ喰ヘナイヤウナ體カリシタ者ガ來テ居ルカラ、既ニ千九百三十五年ノ會議ニハ、日本ハ要求スルニ相違ナイ、ナゼカト云フト、彼等ハ軟弱ナル此濱口内閣ノ全權諸君ト云

タノデアルカラ、如何ニ軟弱ナル此日本全  
權諸君デモ、日本外交當局者デモ、恐ラク  
此儘オメヘトシテハ居レマイ、千九百三  
十五年ニナツナラバ、必ズヤ反撥的ニ七  
割ト云フモノヲ現實ニ主張スルモノデアル  
ト云フコトヲ、既ニ今日ヨリ豫見シテ居ル、  
此慧眼ニハ驚カザルヲ得ナイノデアリマ  
ス、此慧眼ノナイノハ日本當局者ダケデア  
ルト私思フノデアリマス(拍手)兎ニ角既ニ  
ニ論ジテ曰ク、余ハ——又亞米利加トシテ  
ハ、此要求ニ對シテ絶對反對スベキコトヲ  
豫期シ「エキスペクト」シテ居ルト、ハッキ  
リ申シテ居リマス、如何ニ現内閣ノ壽命ガ  
長クトモ、千九百三十五年マデハ續キマス  
マイ、モウ二三箇月カ——來月頃ハ倒レテ  
シマフト思フノデアルガ、假ニ千九百三十  
五年マデアルトシマシテモ、「スチムソン」  
ガ言フガ如ク、此要求ニ對シテハ、亞米利  
加トシテハ絶對反對ト云フコトヲ議會ニ於  
テ堂々ト明言シテ居リマス、殘念ダガ、現  
内閣ノ下デハ再び失敗ヲ致スコトニナルモ  
ノデアリマスルガ、幸ニモ近ク潰レルノデ  
アリマスカラ、是ヘ吾々ガ代シテ回復シテ  
上ダマセウ、此見地カラ考ヘテ、私ハ外務  
當局ニ、千九百三十五年ニハ再び回復シ得  
ル決心アリヤ、又ソレニ對シマンシテ如何ナ  
ル御考ガアリマスルカラ、此際御尋シテ置  
クノデアリマス

○政府委員永井柳太郎君登壇  
(政府委員永井柳太郎君登壇)  
藤井君ガ國防ノ前途ヲ憂慮セラレテ、御質問ニナリマシタ御精神ニハ敬意ヲ表シマス、併シ倫敦會議ノ成果ニ關シテハ、藤井君ニ幾多ノ誤解ガアルト存ジマス、第一ノ御質問ニ於テ、倫敦會議ノ結果、米國ノ海軍力ヲ特ニ増大セシメタデハナイカト云フコトデアリマシタ、此度ノ倫敦會議ハ御承知ノ通り、各國ガ各、其國防ヲ最小限度ノ安全保障ニ制限致シマシテ、ソレニ依テ得タ海軍費ノ餘剰金ヲ以テ、國民負擔ノ輕減ヲ圖ルコトヲ目的ト致シタノデアリマス、故ニ各國ハ各、出來ルダケ五譲ノ精神ヲ以テ、其海軍力ノ制限ニ努メタノデアリマス、現ニ米國ハ「ジュネーヴ」會議ノ當時ニ於キマシテハ、補助艦ニ對シテ合計六十四万噸ヲ要求シテ居リマシタ、然ルニ此度ノ倫敦會議ニ於キマシテ、五十二万六千噸ニ讓歩致シテ居ルノデアリマス、殊ニ藤井君ガ最モ重キヲ置ケタ八時砲大型巡洋艦ハ、千九百二十九年ノ米國ノ海軍計畫ニ於キマシテハ、二十三隻ノ建造ヲ計畫シテ居リマシタニ拘ラズ、二十一隻ニソレヲ制限シ、進ンデ十八隻ニ制限シ、更ニ其十八隻ノ中十五隻マデハ無制限ニ建造ハ出來ルガ、殘リノ三隻ノ建造ニ付テハ、年限ノ制限ヲ受ケナケレバナラヌ程、米國自身モ大ナル讓歩ヲ致シタノデアリマス、潛水艦ニ於キマシテモ、米國ハ全廢ヲ主張致シタニ拘ラズ、日本ノ主張ニ同意ノ如キ結果、御承知ノ通リ「ジュネーヴ」會議ノ當時ニ較ベマスレバ、我方日本ノ米國ニ對スル海軍力ノ比率ハ、寧ロ增大シシテ居リマス、現ニ「ジュネーヴ」會議ノ當時ニ

對シテハ對米六割五分マデ讓歩スル、殊ニ八時砲大禱巡洋艦ニ對シテハ、六割六分八厘マデ讓歩スルト云フコトニシテ交渉ヲサレタガ、尙ホソレデモ會議ハ決裂ニ終タノデアリマス、然ルニ此度ノ倫敦會議ノ成果ハ如何デアッタカト申シマスレバ、米國三十五年ノ次ノ海軍會議マデハ、補助艦ノ總頓數ハ六割九分七厘、即チ七割ニ垂ミトシ、八時砲搭載ノ大型巡洋艦ハ、先程御話ニナツタ千九百二厘ヲ確保スルコトガ出來ルヤウニナツタグケデモ、著シキ進歩デアル、斯ノ如ク米國ヲシテ出來ルダケ讓歩サセテ、尙ホ米國ノ「スチムソン」全權等ガ、此度ノ倫敦會議ノ結果ニ満足シテ居ラレルトスレバ、日本トシテモ亦其結果ニ満足セザルヲ得ナイノデアリマス、此度ノ倫敦會議ノ結果、米國ハ米國ガ安全デアリ得タト考ヘ、日本ハ日本ガ安全デアリ得ルト考ヘ、英國ハ又英國ガ安全デアリ得ルト考ヘル所ニ、其協調點ヲ發見シ得タコトハ、明カニ倫敦會議ノ一成功ト謂ハナケレバナラナイ、私ハ現内閣ノ倫敦會議ニ於テ行ヒマシタ其結果ニ付テ自畫自讚ハ致シマセヌケレドモ、曩ニ華盛頓會議ニ於テ主力艦ノ七割ヲ要求シテ、僅ニ六割ヲ得ルニ過ギズ「ジュネーヴ」會議ニ於テ補助艦ノ總頓數六割五分、八時砲搭載ノ大型巡洋艦ノ噸數六割六分六厘ヲ要求シテ決裂シタ、前二回ノ會議ニ較ベレバ成功デアッタコトハ過チナイコト、思ヒマス(拍手)而シテ其結果、互ニ國防ヲ最小限度ノ安全保障ニ止メマシテ、之ニ依テ各國民ノ負擔輕減ニ貢獻スルコトガ出來ルコトハ、吾吾ノ幸福トスル覺悟ガアルカ如何ト云フコトデアリマスガ、吾々ハ此度ノ會議ニ於テ、特ニ日本ガ劣勢ニ落チタトハ信ジテ居リマ

致シマスル場合ハ、此度ノ倫敦會議ニ於ケルト同ジニ、國防ヲ最小限度ノ安全保障ニ止メテ、日本國民竝ニ世界各國民ノ負擔ノ輕減ヲ圖リ、同時ニ世界ノ平和ニ貢獻シタ伊ト云フ、眞劍ナル覺悟ヲ持シテ居リマス。第三ニ倫敦會議ニ祕密會ノ内容ニ付テ、其經過ヲ公表セヨト云フ御質問デアリマシタガ、特ニ祕密會トシタモノ、内容ニ付キマシテハ、遺憾ナガラ今此處デ公表スルノハ適當デナイト云フコトヲ御答ヘ申シテ置キマス(拍手)。

(藤井達也君登壇)

○藤井達也君 永井君ニ對シマシテハ、吾吾ハ國民外交ノ主張者トシ、又其御雄辯ニ於テ多大ナル敬意ヲ表スルノデアリマス、ケレドモ外交ハサウ簡單ニハ參リマセヌ、天ニ輝ク一方ノ燐タル星ノ光ヲ見ヨ、地ニ咲ク一輪ノ花ナドノ名文句デハ外交ハヤレマセヌ、私ガ多大ナル敬意ヲ表シテ居リマスル永井君ニシテ、今ノヤウナ胡麻化シノ御答辯ガアツテハ、洵ニ驚入ッタモノト謂ハナケレバナリマセヌ、例ヘバ田中内閣當時ニ於テ、「ジュネーヴ」會議ニ當リ對米總括六割五分、或ハ大型巡洋艦ニ關シマシテ六割六分ノ要求ヲシタノデアルケレドモ、是デモ失敗ニ終タモノデアルト云フヤウナコトヲ仰セニナリマスルコトハ、國民ヲ欺クノ甚シイモノデアルト謂ハナケレバナラヌ、事實ハ成程サウデアリマセウ、然ラバ此度ノ倫敦條約ナルモノ、比率ハ、如何ナル關係ニナツテ居リマスルカ、表面ダケハカラクリヲシテ、如何ニモ七割ノ要求ヲ得タヤウナ胡麻化シヲシテ居リマスケレドモ、其内容ヲ精細ニ調べ、尙ホ先程私ガ申シタ如ク、千九百三十五年ニ再び開キマスル所ノ會議ニ於カレマシテ、其要求ト云フモノハ容易デナイ、現在ニ於テスラ亞米利加ノ壓迫ヲ感じテ來マシタヤウナ、此我國ノ外交政策ト致シマシテハ、千九百三十五年再

ビ會議ヲ開カレマス時ニ於テ、亞米利加ガ海軍整備ヲ全ウシ、而シテ我國ガ劣勢力ヲ以テ外交上對抗シマシテモ、今日マデノ主張ニ再ビ返スコトガ出來ルナド、御考ニナルコトハ、青年會館ノ演説會等デ爲サルベキモノデアルト思ヒマス、現ニ千九百三十五年、三十六年ノ我國ノ對米比率ニ關シ、取分ケ八時巡洋艦ニ關シマシテハ、此議場ニ於キマシテモ、或ハ豫算總會ニ於テモ、大問題ニナッタデハアリマセヌカ、一國ノ總理大臣デアリマス所ノ濱口雄幸君、而モ御病氣ノ際追席スルコトハ、沟ニ遺憾千萬デアリマスケレドモ、不輕卒、不謹慎カ、或ハ條約ノ内容ヲ知テ居ラナカッタカ、了解シテ居ラナカッタカ分リマセヌケレドモ、如何ナルコトヲ言シタノデアリマスカ、此條約存續中ト云フモノハ、我國ノ對米比率ハ大型巡洋艦ニ於テ七割二分デアルト云フヤウナコトヲ放言シ、是ガ、本議場ノ大問題ニナックタコトハ御承知ノ如クデアル、諸君、海軍當局ノ言明ヲ承リマシテモ、千九百三十六年ノ十二月三十一日ニナリマスルト、我國ノ大型巡洋艦ノ對米比率ハ六割七分七厘ニ減ルコトモ御承知ト思フノデアリマス、六割七分七厘ナラバ、政友會内閣ガ要求シタコトハ、胡麻化ス積リデアリマセウケレドモ、條約ニ依レバ千九百三十三年ニハ米國ハ新ニ一艘ヲ造ルコトニ著手致シマスカラ、千九百三十八年ノ交ニナルト、我國ノ八時巡洋艦ノ對米比率ハ六割二厘ニ低下スルトキコトニ致シ、千九百三十五年ニハ更ニ又新ナル軍艦ヲ造ルコトニ著手致シマスカラ、果デアリマスガ(拍手)是デモ大成功ダト此壇上デ、永井君ノヤウナ本當ニ吾々ノ敬意ヲ表スル政治家ガ國民ヲ欺クヤウデハ、是ハ國民外交ノ指導者デアルト云フコトヲ全ク落第シタモノデアルト私ハ遺憾ナガラ考

ヘルノデアリマス、國民ヲ欺イテハイケマセヌ、明瞭ニ永井君ハ、千九百三十八年ニナルコトハ、我國ノ對米比率八時巡洋艦ハ六割二五年、三十六年ノ我國ノ對米比率ニ關シ、此議場ニナッタデ、國防上ノ不安ヲ來スモノデアルコトハ、青年會館ノ主張シタ「ジユネーヴ」會議ヨリモ甚ダ劣ルモノデアルト御説明ニナッタ方ガ、正直ナ御方デアルト世間カラ言ハレルト思フノデアリマス(拍手)

ソレカラ色々御説明ガアリマシタケレドモ、此問題ニツダケデ十分吾々ノ説明ガ足リ、又民政黨ガ如何ニ倫敦條約ニ於テ國民ヲ欺イテ居ルカト云フコトハ、民政黨ノ大臣、又民政黨ガ如何ニ倫敦條約ニ於テ國民ニナッタデアリマスガ、落第シマシタカラ、ソレダカラリモ甚ダ劣ルモノデアルト御説明ニナッタ方ガ、正直ナ御方デアルト世間カラ言ハレルト思フノデアリマス(拍手)

ソレカラ色々御説明ガアリマシタケレドモ、此問題ニツダケデ十分吾々ノ説明ガ足リ、又民政黨ガ如何ニ倫敦條約ニ於テ國民ヲ欺イテ居ルカト云フコトハ、民政黨ノ大臣、又民政黨ガ如何ニ倫敦條約ニ於テ國民ニナッタデアリマスガ、落第シマシタカラ、ソレダカラリモ甚ダ劣ルモノデアルト御説明ニナッタ方ガ、正直ナ御方デアルト世間カラ言ハレルト思フノデアリマス(拍手)

堵テ最後ノ御答辯ヲ聽キマシテ、沟ニ私ハ永井君ハ國民外交ノ主張者デアルト云フコトハ、ドウゾ今後ハ御止メヲ願ヒタイト思フノデアリマス、國民外交ト云フモノハ、其國ノ外交ト云フモノヲ正々堂々ト中外ニ之ヲ宣明致シ、國民ヲシテ十分ニ其内容ヲ知ラシメテ、而シテ國民ハ倫敦條約ガ民政黨内閣ノ爲ニ大ナル失敗ヲ來シ、國防上ノ不安ト云フモノヲ招來シタガ、將來之ヲ回復セネバナラヌ自覺ヲ促スコトニ銳意努力セシムルコトガ、國民外交ノ趣意デアルト私ハ思フノデアリマス、然ルニ何デモ彼デモ、之ヲ包ミ隠シテ置イテ、之ヲ發表シナイト云フヤウナコトニナリマスナラバ、國民外交デハナイト思フノデアル、所謂祕密外交デアリマス、現ニ政友會田中内閣當時過内容ヲ國民ニ知ラセマシテ、假ニ倫敦條約デアリマシタ「リード」ガ、堂々ト此内容ヲ發表致シテ居リマスルナラバ、何ヲ恐レテ我國ガ其内容ノ發表ヲ拒ム必要ガアルカト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)然ルニ既ニ米國ニ於テ、而モ倫敦會議ノ全權デアリマシタ「リード」ガ、堂々ト此内容ヲ發表致シテ居リマスルナラバ、何ヲ恐レテ我國ガ其内容ノ發表ヲ拒ム必要ガアルカト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)然ルニ内容ハ事祕密ニ屬スルカラ之ヲ發表シナイト云フ、外國ガ既ニ發表シテ居ルナラバ、我國ノ外務當局モ之ヲ發表シテ、其經過内容ヲ國民ニ知ラセマシテ、假ニ倫敦條約ガ成功ナラ成功デ宜シ、失敗ナラ失敗トシテ、國民ガ此成功失敗ト云フコトヲ分判斷シテ、千九百三十五年ノ會議ニ列シマス際ノ、國民ノ決心ト政府當局ノ決意ト云フモノヲ今日ヨリ、作ラシメルト云フ上ヲ考ヘテ居シテハ、外交當局トシテ國防ニ對シマスル注意ガ足リナイノカ、若クハ徒ニ唯國民ヲ欺ク爲ニ、此壇上デ辯ヲ弄サレタ程讓歩シテ吳レタナド、云フ御目出タイ事モノデアルト言ハネバナラヌノデアリマス(拍手)是ハ餘談ニ瓦リマシタガ、一應氣ガ付キマシタカラ此點ニ注意ヲ與ヘテ置キマス、ソレカラ更ニ「リード」ガ辯明シテ、若シ亞米利加ガ大型巡洋艦二十一隻ナント云フモノヲ固持シタナラバ、日本ハ亞米利加ニ對シテ五對三ノ比率ヲ保ツ爲ニ、殆ド英吉利ト

三隻デアタモノガ十八隻ニナッタコトハ、非常ナ亞米利加ノ讓歩デヤナイカナドト云フコトヲ仰セニナリマシタガ、ソレダカラヘルコトハ永井君ハ甚ダ劣ルモノデアルト御説明ニナッタシテ、外務當局——斯ウナルト永井君ハ甚ダ氣ノ毒デアリマスガ、落第シマシタカラ、ドウカ外務大臣總理大臣ガ出マシテ、此質問ニ對シテ答辯ヲ欲スル次第デアリマス

昨千九百三十年七月十五日、米國上院ノ特別議會ニ於キマシテ、全權「リード」ハ上院議員「ジョンソン」ノ要求ニ應ジマシテ、ニ之ヲ知ラシタノデアルコトヲ確ク銘ヲ打テ置クノデアリマス

堵テ最後ノ御答辯ヲ聽キマシテ、沟ニ私ハ永井君ハ國民外交ノ主張者デアルト云フコトハ、ドウゾ今後ハ御止メヲ願ヒタイト思フノデアリマス、國民外交ト云フモノハ、其國ノ外交ト云フモノヲ正々堂々ト中外ニ之ヲ宣明致シ、國民ヲシテ十分ニ其内容ヲ知ラシメテ、而シテ國民ハ倫敦條約ガ民政黨内閣ノ爲ニ大ナル失敗ヲ來シ、國防上ノ不安ト云フモノヲ招來シタガ、將來之ヲ回復セネバナラヌ自覺ヲ促スコトニ銳意努力セシムルコトガ、國民外交ノ趣意デアルト私ハ思フノデアリマス、然ルニ何デモ彼デモ、之ヲ包ミ隠シテ置イテ、之ヲ發表シナイト云フヤウナコトニナリマスナラバ、國民外交デハナイト思フノデアル、所謂祕密外交デアリマス、現ニ政友會田中内閣當時過内容ヲ國民ニ知ラセマシテ、假ニ倫敦條約デアリマスルナラバ、何ヲ恐レテ我國ガ其内容ノ發表ヲ拒ム必要ガアルカト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)然ルニ既ニ米國ニ於テ、而モ倫敦會議ノ全權デアリマシタ「リード」ガ、堂々ト此内容ヲ發表致シテ居リマスルナラバ、何ヲ恐レテ我國ガ其内容ノ發表ヲ拒ム必要ガアルカト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)然ルニ内容ハ事祕密ニ屬スルカラ之ヲ發表シナイト云フ、外國ガ既ニ發表シテ居ルナラバ、我國ノ外務當局モ之ヲ發表シテ、其經過内容ヲ國民ニ知ラセマシテ、假ニ倫敦條約ガ成功ナラ成功デ宜シ、失敗ナラ失敗トシテ、國民ガ此成功失敗ト云フコトヲ分判斷シテ、千九百三十五年ノ會議ニ列シマス際ノ、國民ノ決心ト政府當局ノ決意ト云フモノヲ今日ヨリ、作ラシメルト云フ上カラ考ヘマシテモ、此發表ト云フコトハ最モ重大ナリト私ハ論斷セザルヲ得ナイノデアリマス

ソレカラ先程永井君ハ、亞米利加ガ二十ノデアリマスト論じ、更ニ潛水艦ニ關シ

テハ、次ノヤウナ騒クベキ事實ガアリマスカラ、能ク議員諸君ガ御聽キニチッテ、御園ニ歸タラバ選舉區ノ國民ニ御宣傳ガ願ヒタイト思フノデアリマス(笑聲)「リード」ガ上院議員ニ答へタ一節ニ於テ、次ノヤウナ事ヲ言テ居リマス、洵ニ妙味ノアル所ノ言論ガ茲ニ發表サレテ居ルノデアリマス、彼言ヒマスルニ「潛水艦ニ關シテハ、雙方潛水艦ヲ以テ戰爭スルコトハナイ」是ハ日本ト亞米利加トノ間ノ將來ノ關係ノ質問應答カラ「リード」ガ之ヲ引出シタノデアリマスカラ、左様御承知リ願ヒダイ、「隨テ潛水艦ニ關スル日米ノ比率ハ、何等重要ナ事デナイ」——亞米利加ノ方デハ重要ナ事デナイト言テ居ル、日本デハ大變潛水艦が必要デアルト當局が唱ヘテ居リマスガ、亞米利加ノ方デハ、何等必要ガナイト言テ居ル、「日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ日本ノ一倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナイ」——之ヲ御記憶ヲ願ヒタイ、日本ノ外務大臣及ビ外務當局ハ、如何ナル御考カ知ラヌケレドモ、全權トシテ參々タ人ハ此様ニ言テ居ル、日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナカッタ云フ、驚クベキ事デハアリマセヌカ、潛水艦ガ我國ノ國防ニ於キマシテ重大ダ、故ニ七万八千噸ト云フ現有量ヲ飽マデモ保持スルト云フ、其御決心ニハ感服スルノデアリマスルガ、唯現有勢力ダケヲ得テ來レバ宜シト云フ——若櫻禮次郎君ナドハ、アノ當時ニ於キマシテ、全權ニ出ル前ニハ例ノ越後鐵道ノ獄事件、十萬圓問題ナドガ絡ンデ、輿論囂々トシテ非難ノ形ニナッテ居タモノヲ、民政黨ノ諸君ガ大イニ之ヲ壓迫シテ、若櫻全權ヲ倫敦ニ送リマシタガ、若櫻君ハ潛水艦七万八千噸ト云フモノハ、ドウシテモ必要デアルト言フテ、此必要ト云フコトヲ飽マデ保持サレマシタ御考ニハ敬意ヲ表シマスルケレドモ、驚ク勿レ、現有勢力ダケハ保持シケレバ、國ニ歸テ國民ニ非難サレルト云

フ考ガラ、自分ノ方ニ七万八千噸サヘ吳レルナラバ、君ノ方ハ二倍デモ三倍デモ差支ゴザイマセヌナドト云フヤウナ事ヲ、亞米利加ニ對シテ言フニ至テハ、驚クベキ全權、無能ナル全權、無恥厚瀆ナル全權諸君シテハ、雙方潛水艦ヲ以テ戰爭スルコトハナイ」是ハ日本ト亞米利加トノ間ノ將來ノ關係ノ質問應答カラ「リード」ガ之ヲ引出シタノデアリマスカラ、左様御承知リ願ヒダイ、「隨テ潛水艦ニ關スル日米ノ比率ハ、何等重要ナ事デナイ」——亞米利加ノ方デハ重要ナ事デナイト言テ居ル、日本デハ大變潛水艦が必要デアルト當局が唱ヘテ居リマスガ、亞米利加ノ方デハ、何等必要ガナイト言テ居ル、「日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ日本ノ一倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナイ」——之ヲ御記憶ヲ願ヒタイ、日本ノ外務大臣及ビ外務當局ハ、如何ナル御考カ知ラヌケレドモ、全權トシテ參々タ人ハ此様ニ言テ居ル、日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナカッタ云フ、驚クベキ事デハアリマセヌカ、潛水艦ガ我國ノ國防ニ於キマシテ重大ダ、故ニ七万八千噸ト云フ現有量ヲ飽マデモ保持スルト云フ、其御決心ニハ感服スルノデアリマスルガ、唯現有勢力ダケヲ得テ來レバ宜シト云フ——若櫻禮次郎君ナドハ、アノ當時ニ於キマシテ、全權ニ出ル前ニハ例ノ越後鐵道ノ獄事件、十萬圓問題ナドガ絡ンデ、輿論囂々トシテ非難ノ形ニナッテ居タモノヲ、民政黨ノ諸君ガ大イニ之ヲ壓迫シテ、若櫻全權ヲ倫敦ニ送リマシタガ、若櫻君ハ潛水艦七万八千噸ト云フモノハ、ドウシテモ必要デアルト言フテ、此必要ト云フコトヲ飽マデ保持サレマシタ御考ニハ敬意ヲ表シマスルケレドモ、驚ク勿レ、現有勢力ダケハ保持シケレバ、國ニ歸テ國民ニ非難サレルト云

フ考ガラ、自分ノ方ニ七万八千噸サヘ吳レルナラバ、君ノ方ハ二倍デモ三倍デモ差支ゴザイマセヌナドト云フヤウナ事ヲ、亞米利加ニ對シテ言フニ至テハ、驚クベキ全權、無能ナル全權、無恥厚瀆ナル全權諸君シテハ、雙方潛水艦ヲ以テ戰爭スルコトハナイ」是ハ日本ト亞米利加トノ間ノ將來ノ關係ノ質問應答カラ「リード」ガ之ヲ引出シタノデアリマスカラ、左様御承知リ願ヒダイ、「隨テ潛水艦ニ關スル日米ノ比率ハ、何等重要ナ事デナイ」——亞米利加ノ方デハ重要ナ事デナイト言テ居ル、日本デハ大變潛水艦が必要デアルト當局が唱ヘテ居リマスガ、亞米利加ノ方デハ、何等必要ガナイト言テ居ル、「日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ日本ノ一倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナイ」——之ヲ御記憶ヲ願ヒタイ、日本ノ外務大臣及ビ外務當局ハ、如何ナル御考カ知ラヌケレドモ、全權トシテ參々タ人ハ此様ニ言テ居ル、日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナカッタ云フ、驚クベキ事デハアリマセヌカ、潛水艦ガ我國ノ國防ニ於キマシテ重大ダ、故ニ七万八千噸ト云フ現有量ヲ飽マデモ保持スルト云フ、其御決心ニハ感服スルノデアリマスルガ、唯現有勢力ダケヲ得テ來レバ宜シト云フ——若櫻禮次郎君ナドハ、アノ當時ニ於キマシテ、全權ニ出ル前ニハ例ノ越後鐵道ノ獄事件、十萬圓問題ナドガ絡ンデ、輿論囂々トシテ非難ノ形ニナッテ居タモノヲ、民政黨ノ諸君ガ大イニ之ヲ壓迫シテ、若櫻全權ヲ倫敦ニ送リマシタガ、若櫻君ハ潛水艦七万八千噸ト云フモノハ、ドウシテモ必要デアルト言フテ、此必要ト云フコトヲ飽マデ保持サレマシタ御考ニハ敬意ヲ表シマスルケレドモ、驚ク勿レ、現有勢力ダケハ保持シケレバ、國ニ歸テ國民ニ非難サレルト云

フ考ガラ、自分ノ方ニ七万八千噸サヘ吳レルナラバ、君ノ方ハ二倍デモ三倍デモ差支ゴザイマセヌナドト云フヤウナ事ヲ、亞米利加ニ對シテ言フニ至テハ、驚クベキ全權、無能ナル全權、無恥厚瀆ナル全權諸君シテハ、雙方潛水艦ヲ以テ戰爭スルコトハナイ」是ハ日本ト亞米利加トノ間ノ將來ノ關係ノ質問應答カラ「リード」ガ之ヲ引出シタノデアリマスカラ、左様御承知リ願ヒダイ、「隨テ潛水艦ニ關スル日米ノ比率ハ、何等重要ナ事デナイ」——亞米利加ノ方デハ重要ナ事デナイト言テ居ル、日本デハ大變潛水艦が必要デアルト當局が唱ヘテ居リマスガ、亞米利加ノ方デハ、何等必要ガナイト言テ居ル、「日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ日本ノ一倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナイ」——之ヲ御記憶ヲ願ヒタイ、日本ノ外務大臣及ビ外務當局ハ、如何ナル御考カ知ラヌケレドモ、全權トシテ參々タ人ハ此様ニ言テ居ル、日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナカッタ云フ、驚クベキ事デハアリマセヌカ、潛水艦ガ我國ノ國防ニ於キマシテ重大ダ、故ニ七万八千噸ト云フ現有量ヲ飽マデモ保持スルト云フ、其御決心ニハ感服スルノデアリマスルガ、唯現有勢力ダケヲ得テ來レバ宜シト云フ——若櫻禮次郎君ナドハ、アノ當時ニ於キマシテ、全權ニ出ル前ニハ例ノ越後鐵道ノ獄事件、十萬圓問題ナドガ絡ンデ、輿論囂々トシテ非難ノ形ニナッテ居タモノヲ、民政黨ノ諸君ガ大イニ之ヲ壓迫シテ、若櫻全權ヲ倫敦ニ送リマシタガ、若櫻君ハ潛水艦七万八千噸ト云フモノハ、ドウシテモ必要デアルト言フテ、此必要ト云フコトヲ飽マデ保持サレマシタ御考ニハ敬意ヲ表シマスルケレドモ、驚ク勿レ、現有勢力ダケハ保持シケレバ、國ニ歸テ國民ニ非難サレルト云

フ考ガラ、自分ノ方ニ七万八千噸サヘ吳レルナラバ、君ノ方ハ二倍デモ三倍デモ差支ゴザイマセヌナドト云フヤウナ事ヲ、亞米利加ニ對シテ言フニ至テハ、驚クベキ全權、無能ナル全權、無恥厚瀆ナル全權諸君シテハ、雙方潛水艦ヲ以テ戰爭スルコトハナイ」是ハ日本ト亞米利加トノ間ノ將來ノ關係ノ質問應答カラ「リード」ガ之ヲ引出シタノデアリマスカラ、左様御承知リ願ヒダイ、「隨テ潛水艦ニ關スル日米ノ比率ハ、何等重要ナ事デナイ」——亞米利加ノ方デハ重要ナ事デナイト言テ居ル、日本デハ大變潛水艦が必要デアルト當局が唱ヘテ居リマスガ、亞米利加ノ方デハ、何等必要ガナイト言テ居ル、「日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ日本ノ一倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナイ」——之ヲ御記憶ヲ願ヒタイ、日本ノ外務大臣及ビ外務當局ハ、如何ナル御考カ知ラヌケレドモ、全權トシテ參々タ人ハ此様ニ言テ居ル、日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナカッタ云フ、驚クベキ事デハアリマセヌカ、潛水艦ガ我國ノ國防ニ於キマシテ重大ダ、故ニ七万八千噸ト云フ現有量ヲ飽マデモ保持スルト云フ、其御決心ニハ感服スルノデアリマスルガ、唯現有勢力ダケヲ得テ來レバ宜シト云フ——若櫻禮次郎君ナドハ、アノ當時ニ於キマシテ、全權ニ出ル前ニハ例ノ越後鐵道ノ獄事件、十萬圓問題ナドガ絡ンデ、輿論囂々トシテ非難ノ形ニナッテ居タモノヲ、民政黨ノ諸君ガ大イニ之ヲ壓迫シテ、若櫻全權ヲ倫敦ニ送リマシタガ、若櫻君ハ潛水艦七万八千噸ト云フモノハ、ドウシテモ必要デアルト言フテ、此必要ト云フコトヲ飽マデ保持サレマシタ御考ニハ敬意ヲ表シマスルケレドモ、驚ク勿レ、現有勢力ダケハ保持シケレバ、國ニ歸テ國民ニ非難サレルト云

フ考ガラ、自分ノ方ニ七万八千噸サヘ吳レルナラバ、君ノ方ハ二倍デモ三倍デモ差支ゴザイマセヌナドト云フヤウナ事ヲ、亞米利加ニ對シテ言フニ至テハ、驚クベキ全權、無能ナル全權、無恥厚瀆ナル全權諸君シテハ、雙方潛水艦ヲ以テ戰爭スルコトハナイ」是ハ日本ト亞米利加トノ間ノ將來ノ關係ノ質問應答カラ「リード」ガ之ヲ引出シタノデアリマスカラ、左様御承知リ願ヒダイ、「隨テ潛水艦ニ關スル日米ノ比率ハ、何等重要ナ事デナイ」——亞米利加ノ方デハ重要ナ事デナイト言テ居ル、日本デハ大變潛水艦が必要デアルト當局が唱ヘテ居リマスガ、亞米利加ノ方デハ、何等必要ガナイト言テ居ル、「日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ日本ノ一倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナイ」——之ヲ御記憶ヲ願ヒタイ、日本ノ外務大臣及ビ外務當局ハ、如何ナル御考カ知ラヌケレドモ、全權トシテ參々タ人ハ此様ニ言テ居ル、日本ハ亞米利加ニ付テ日本ノ二倍ヲ與フルニ敢テ異議ガナカッタ云フ、驚クベキ事デハアリマセヌカ、潛水艦ガ我國ノ國防ニ於キマシテ重大ダ、故ニ七万八千噸ト云フ現有量ヲ飽マデモ保持スルト云フ、其御決心ニハ感服スルノデアリマスルガ、唯現有勢力ダケヲ得テ來レバ宜シト云フ——若櫻禮次郎君ナドハ、アノ當時ニ於キマシテ、全權ニ出ル前ニハ例ノ越後鐵道ノ獄事件、十萬圓問題ナドガ絡ンデ、輿論囂々トシテ非難ノ形ニナッテ居タモノヲ、民政黨ノ諸君ガ大イニ之ヲ壓迫シテ、若櫻全權ヲ倫敦ニ送リマシタガ、若櫻君ハ潛水艦七万八千噸ト云フモノハ、ドウシテモ必要デアルト言フテ、此必要ト云フコトヲ飽マデ保持サレマシタ御考ニハ敬意ヲ表シマスルケレドモ、驚ク勿レ、現有勢力ダケハ保持シケレバ、國ニ歸テ國民ニ非難サレルト云







